

「SDGs 推進 TGC しずおか 2025 by
TOKYO GIRLS COLLECTION」
における経済波及効果分析

報 告 書

令和 7 年 3 月

静岡県地域経済分析研究学会

目 次

1. SDGs 推進 TGC しずおか 2025 by TOKYO GIRLS COLLECTION の開催概要	1
2. 来場者アンケート結果	2
(1) アンケート実施要領	2
(2) 回答者の属性、行動 (Q 1)	3
① 性別・年齢	3
② 同行人数・同行者	4
③ 居住地	5
④ 来場に利用した主な交通手段 (複数回答)	7
(3) SDGs 推進 TGC しずおか 2025 について (Q 2)	8
①-1 イベントの来場のきっかけとなった情報源 (性別)	8
①-2 イベントの来場のきっかけとなった情報源 (年齢別)	9
①-3 イベントの来場のきっかけとなった情報源 (居住地別)	10
② このようなファッション等若者や女性向けイベントを開催することについて	12
③ このイベント参加に伴い、ついでに観光やレジャーを行いますか？ (複数回答)	13
④ 静岡市外の方にお尋ねします。このイベント以降、観光やレジャー、 グルメ、イベント参加の目的で静岡市を訪れたいと思いますか？ (複数回答)	14
⑤ 「TGC しずおか」が来年も開催された場合、参加しますか？	15
⑥ 前回の「TGC しずおか 2024」に参加 (または視聴) しましたか？	16
⑦ 「会場に来場し、参加した」又は「オンラインで視聴した」と回答した方にお聞き します。TGC しずおかへの参加 (または視聴) によって SDGs 推進を意識し、行動 に移すことが できましたか	17
⑧ 来場にあって、ご自宅から会場までの片道の所要時間をお答えください	18
⑨ 会場への片道の交通費をお答えください	19
⑩ 来場に当たって、宿泊をしましたか。宿泊数、宿泊費も教えてください	20
⑪ 来場にあって使った金額	21
3. 地域経済波及効果の分析	24
(1) 経済波及効果の分析方法	24
(2) 経済波及効果の起点となる最終需要	26
① 最終需要 1-来場者の支出 (宿泊・飲食・買い物・交通費)	26
② 最終需要 2-主催者の運営支出	29
③ 最終需要のまとめ	29
(3) 経済波及効果の分析結果の概要	30
① 企業・産業への経済波及効果 (生産誘発効果)	30
② 家計への雇用効果	32
③ 行政への税収効果	33
④ 地域社会への定住人口効果	34

凡例

本報告書の図表について、合計の数字と内訳を足した数字は同じであるが、小数の四捨五入の端数処理の関係で、合計の数字と内訳を足した数字が一致しない場合がある。

1. SDGs 推進 TGC しずおか 2025 by TOKYO GIRLS COLLECTION の開催概要

今回、全国にSDGsを発信し最先端の取り組みとなるべく、史上最大級のファッションフェスタ「東京ガールズコレクション」の「地方創生プロジェクト」と「SDGsの推進」を掛け合わせた「SDGs 推進TGC しずおか2025 by TOKYO GIRLS COLLECTION」（以下、TGCしずおか2025）を開催した。

表1 TGCしずおか2025の開催概要

主 催	東京ガールズコレクション実行委員会
共 催	静岡県、静岡市
日 時	2025年1月11日（土） 開場12:00/開演14:00/終演19:30
会 場	ツインメッセ静岡北館大展示場（静岡県静岡市駿河区曲金3丁目1番10号）
入場方法	チケット購入、全席指定席 指定席S：先行価格：13,500円、一般価格：14,000円 ※金額はすべて税込 指定席A：先行価格：10,000円、一般価格：10,500円 ※金額はすべて税込
来場者数	延べ約7,980人

2. 来場者アンケート結果

(1) アンケート実施要領

TGCしずおか2025の開催時に実施した来場者アンケートの実施概要は以下のとおりである。

表2 来場者アンケートの実施概要

調査体制	調査主体：静岡県、静岡市、東京ガールズコレクション実行委員会 調査協力：静岡県地域経済分析研究学会
実施日時	2025年1月11日（土）11:00～15:00
実施場所	ツインメッセ静岡北館大展示場
調査対象	本イベントの一般来場者
調査方法	調査員が回答依頼を口頭で行い、承諾を得た場合はQRコードを交付。 Webにより回答後、調査員が確認を行った。
回収状況	回収数598

(2) 回答者の属性、行動

① 性別・年齢 ※ () 内は前回1年前の2024年の結果である

回答者の性別をみると、女性が91.6%（90.6%）と大半を占めている。前回に比べて男性が7.0%（8.1%）とやや減少している（図1）。その他1.3%は、「答えたくない」選択肢を選んだ回答者である。

年齢では、20代の36.1%（45.3%）と10代の36.0%（33.1%）が多く、合わせて約7割を占めている（図2）。30代以上の年齢層は27.9%（21.6%）と増加している。

前回に比べて突出していた20代の比重が9.2ポイント低下した反面で、10代（33.1%→36.0%）、30代（9.0%→9.4%）、40代（7.6%→9.9%）、50代（4.1%→7.4%）と、参加者が他の年代に広がっている傾向を読み取ることができる。

図1 回答者の性別(n=598)

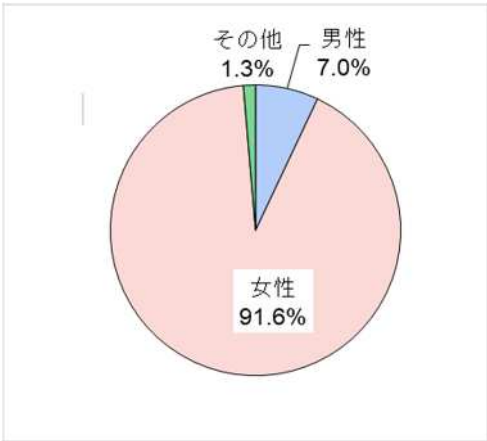


図2 回答者の年齢(n=598)

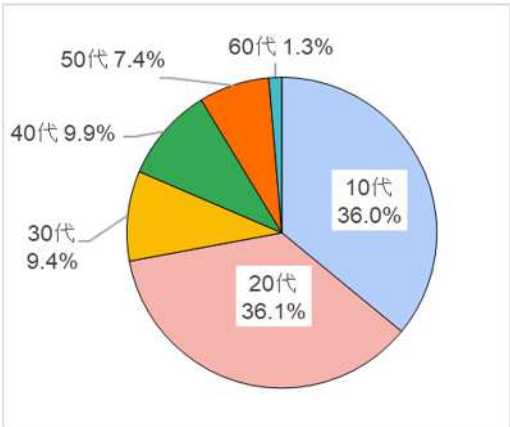


表3 性別・年齢別回答数 (n=598)

性別 年齢別	回答数 (人)				年齢構成比 (%)				(参考)
	男性	女性	その他 (注1)	合計	男性	女性	その他 (注1)	合計 2025	合計 (2024)
10代	11	202	2	215	26.2%	36.9%	25.0%	36.0%	33.1%
20代	14	199	3	216	33.3%	36.3%	37.5%	36.1%	45.3%
30代	4	51	1	56	9.5%	9.3%	12.5%	9.4%	9.0%
40代	5	53	1	59	11.9%	9.7%	12.5%	9.9%	7.6%
50代	7	36	1	44	16.7%	6.6%	12.5%	7.4%	4.1%
60代	1	7	0	8	2.4%	1.3%	0.0%	1.3%	0.7%
70代以上	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
合計	42	548	8	598	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
男女構成比	7.0%	91.6%	1.3%	100.0%					
〃 (2024年)	8.1%	90.6%	1.2%	100.0%					

(注1) 性別の「その他」は選択肢「答えたくない」と回答した人の集計である。

② 同行人数・同行者

一緒に来た人数を尋ねたところ、「2人」との回答が 71.9%（64.4%）と7割を超えて前回より増えている。次いで「3人」が 13.0%（11.2%）、「1人」が 10.4%（10.4%）、「4人」が 4.8%（9.0%）、「5人以上」が 3.0%（5.0%）となっている（図3）。2人連れが増えた分、3人から5人以上の来場者が減っている。

同行者については、「友人」が 56.7%（57.2%）と最も多く、次いで「家族」が 31.3%（28.1%）と続き、「1人」6.9%（9.7%）は前回から減少した。「家族」が増えていることが今回の特徴である。「仕事仲間」3.5%（3.5%）、「カップル」1.5%（1.4%）は前回と大きくは変わっていない（図4）。

図3 同行人数(n=598)

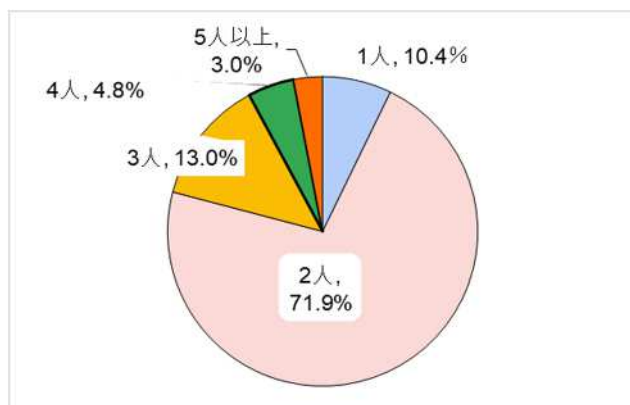


図4 同行者(n=598)

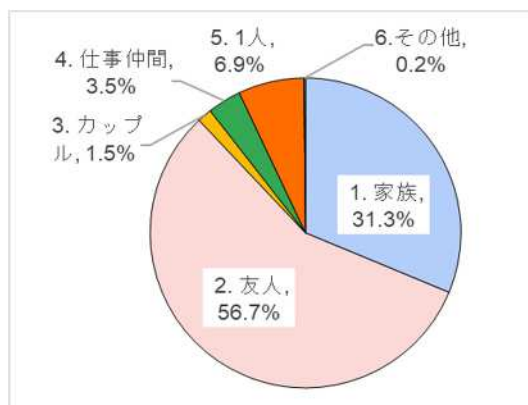


表4 同行人数・同行者 (n=598)

回答者数 (人)	1人	2人	3人	4人	5人以上	合計
1. 家族	0	135	36	12	4	187
2. 友人	2	279	36	16	6	339
3. カップル	0	9	0	0	0	9
4. 仕事仲間	0	6	6	1	8	21
5. 1人	41	0	0	0	0	41
6. その他(親戚)	0	1	0	0	0	1
合計	43	430	78	29	18	598

構成比 (%)	1人	2人	3人	4人	5人以上	横合計	縦合計	縦合計 (2024)
1. 家族	0.0%	72.2%	19.3%	6.4%	2.1%	31.3%	31.3%	28.1%
2. 友人	0.6%	82.3%	10.6%	4.7%	1.8%	56.7%	56.7%	57.2%
3. カップル	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	1.5%	1.4%
4. 仕事仲間	0.0%	28.6%	28.6%	4.8%	38.1%	3.5%	3.5%	3.5%
5. 1人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.9%	6.9%	9.7%
6. その他(親戚)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.2%	0.0%
合計 (横)	7.2%	71.9%	13.0%	4.8%	3.0%	100.0%	100.0%	100.0%
合計 (2024)	10.4%	64.4%	11.2%	9.0%	5.0%	100.0%		

③ 居住地

静岡市内が 29.6%（21.0%）、静岡市以外の静岡県内が 41.5%（35.6%）、静岡県外からは 28.9%（43.4%）であった。昨年までの静岡市内の居住者の割合が減少し、静岡県外からの来場者が増えて参加者の「居住地の広域化」が続いていた傾向が今回は止まり、静岡市内と静岡県内の来場者が増えている（表 5-1 表 5-2・図 5）。

表 5-1 参加者の居住地—まとめ（n=598）

	回答者数 (人)	構成比の推移			
	2025	2025	2024	2023	2020
静岡県内		71.1%	56.6%	64.6%	75.1%
静岡市	177	29.6%	21.0%	29.1%	34.4%
葵区	60	10.0%	7.8%	10.8%	12.0%
駿河区	68	11.4%	6.7%	9.0%	11.3%
清水区	49	8.2%	6.5%	8.7%	10.2%
区不詳				0.7%	0.8%
静岡市以外の静岡県内（注2）	248	41.5%	35.6%	35.5%	40.7%
静岡県外（注3）	173	28.9%	43.4%	35.4%	24.6%
居住地不詳				0.2%	0.3%
合計	598	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（注1）四捨五入の関係で表示されている内訳を足しても合計と一致しない場合がある。

（注2）県内市町名不詳を含む

（注3）都道府県名不詳を含む

図 5 参加者の居住地（n=598）

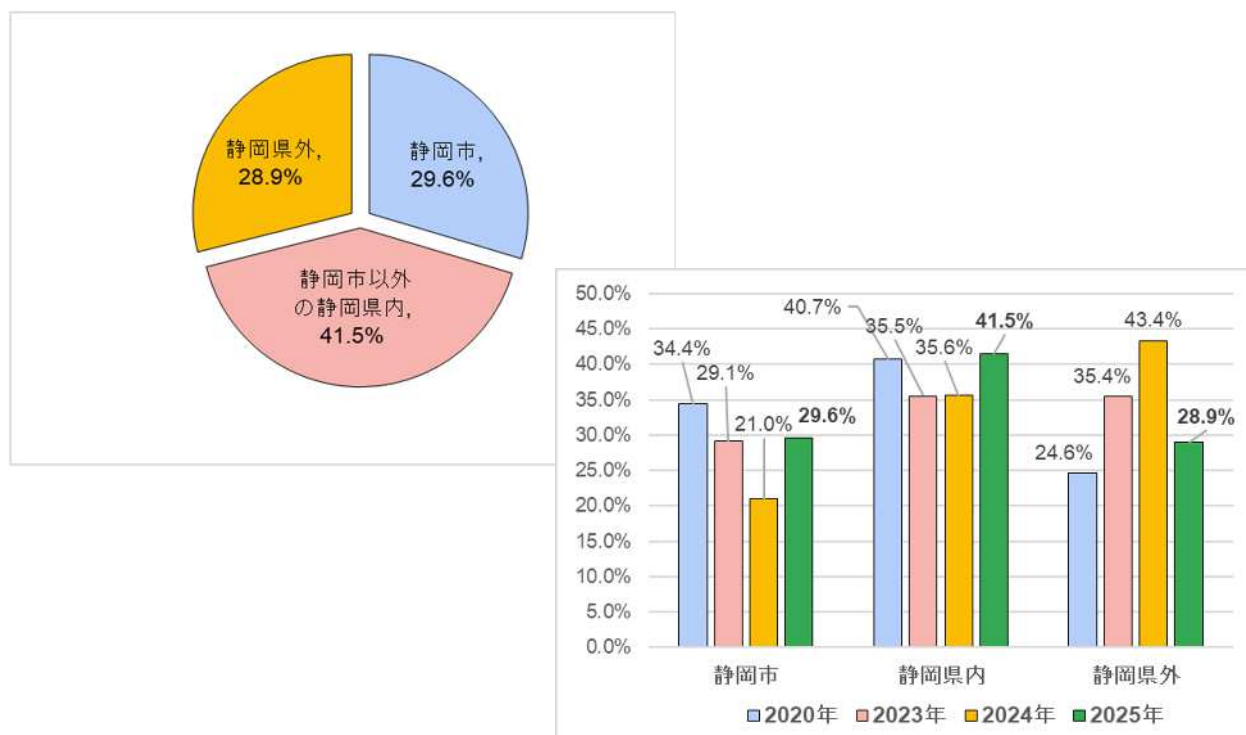


表 5-2 参加者の居住地－詳細（n=598）

居住地	回答者 数(人)	構成比と推移				居住地	回答者 数(人)	構成比と推移			
		2025	2024	2023	2020			2025	2024	2023	2020
静岡県内	425	71.1%	56.6%	64.6%	75.5%	静岡県外	173	28.9%	43.4%	35.4%	24.6%
東部・伊豆地域	36	6.0%	5.1%	11.0%	12.7%	北海道	1	0.2%			
沼津市	4	0.7%	1.1%	1.2%	1.5%	岩手県			0.2%		
熱海市				0.3%	0.3%	宮城県			0.2%	0.2%	0.2%
三島市	6	1.0%	0.2%	1.5%	0.8%	福島県			0.2%	0.2%	
伊東市	1	0.2%		0.3%	0.2%	茨城県	3	0.5%	0.9%	0.5%	0.3%
下田市						栃木県	1	0.2%	0.7%	0.3%	0.2%
伊豆市	1	0.2%	0.2%			群馬県	3	0.5%	0.2%		0.7%
伊豆の国市	1	0.2%		1.0%	0.2%	埼玉県	14	2.3%	2.5%	2.0%	0.5%
東伊豆町						千葉県	8	1.3%	1.8%	2.2%	0.7%
河津町	1	0.2%			0.2%	東京都	20	3.3%	5.7%	7.2%	4.8%
南伊豆町				0.3%	0.2%	神奈川県	15	2.5%	3.0%	5.0%	3.8%
松崎町						新潟県			0.2%	0.2%	
西伊豆町	1	0.2%	0.2%			山梨県	6	1.0%	0.9%	1.0%	0.2%
函南町	1	0.2%		0.5%	0.2%	長野県	1	0.2%	1.1%	0.2%	0.3%
富士宮市	2	0.3%	0.4%	1.7%	2.3%	石川県			0.5%	0.2%	
富士市	14	2.3%	2.5%	3.2%	4.7%	富山県			0.4%		
御殿場市			0.2%	0.2%	0.3%	岐阜県			1.6%	0.3%	2.3%
裾野市	2	0.3%	0.4%	0.2%	0.5%	愛知県	23	3.8%	5.1%	5.7%	6.1%
清水町	2	0.3%		0.3%	1.0%	三重県	3	0.5%	0.9%	1.8%	1.0%
長泉町				0.3%	0.3%	滋賀県	1	0.2%	0.2%	1.5%	
小山町			0.2%			京都府	1	0.2%			
中部地域	218	36.5%	28.6%	39.4%	50.6%	大阪府	2	0.3%	1.1%	3.0%	0.8%
静岡市	177	29.6%	21.0%	29.1%	34.4%	奈良県	1	0.2%			
葵区	60	10.0%	7.8%	10.8%	12.0%	和歌山県			0.2%	0.3%	
駿河区	68	11.4%	6.7%	9.0%	11.3%	兵庫県	2	0.3%	0.9%	1.0%	0.8%
清水区	49	8.2%	6.5%	8.7%	10.2%	岡山県	2	0.3%			
区不詳				0.7%	0.8%	広島県			0.5%	0.2%	0.2%
島田市	8	1.3%	1.4%	2.8%	2.7%	愛媛県			0.4%		
焼津市	15	2.5%	2.5%	3.2%	5.5%	不明			14.3%	1.0%	0.3%
藤枝市	9	1.5%	2.7%	2.2%	4.7%	北海道				0.2%	
牧之原市	6	1.0%	0.9%	1.0%	0.8%	福井県					
吉田町	2	0.3%	0.2%	0.8%	0.8%	京都府	1	0.2%		0.7%	0.5%
川根本町	1	0.2%		0.3%	1.7%	岡山県					0.7%
西部地域	57	9.5%	8.1%	13.5%	11.9%	香川県					0.2%
浜松市	22	3.7%	5.0%	8.3%	6.8%	徳島県					0.2%
磐田市	7	1.2%	0.7%	0.8%	1.3%	福岡県	1	0.2%			
掛川市	7	1.2%	0.9%	2.0%	1.5%	長崎県				0.7%	
袋井市	3	0.5%	0.7%	0.7%	0.8%	大分県				0.2%	
湖西市	6	1.0%		0.8%	0.3%	宮崎県	1	0.2%			
御前崎市	4	0.7%			0.2%	沖縄県	1	0.2%			
菊川市	8	1.3%	0.9%	0.7%	0.2%	県名不明	62	10.4%			
森町				0.2%	0.8%	居住地不詳				0.2%	0.3%
市町村名不詳	114	19.1%	14.7%	0.7%	0.3%	合計	598	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(注) 四捨五入の関係で表示されている内訳の合計が合計欄と一致しない場合がある。

④ 来場に利用した主な交通手段（複数回答）

前回までの来場者の居住地の広域化（③居住地を参照）の進行が停止し逆転した影響で、交通手段にも変化があった。

利用の比率が高まった交通手段は、近場からの来場者の増加を反映して、自家用車が44.8%（43.7%）、自転車が6.0%（2.5%）であった。他方で、新幹線が19.9%（24.4%）、JRや静岡鉄道などの鉄道利用者の比率が22.6%（24.1%）などと減少した。

新幹線利用者は、静岡県外からの来場者の61.3%（52.7%）と6割を超えている。

図 6 主な交通手段（複数回答:回答者総数 598 人に対する回答数の比率）（n=598）

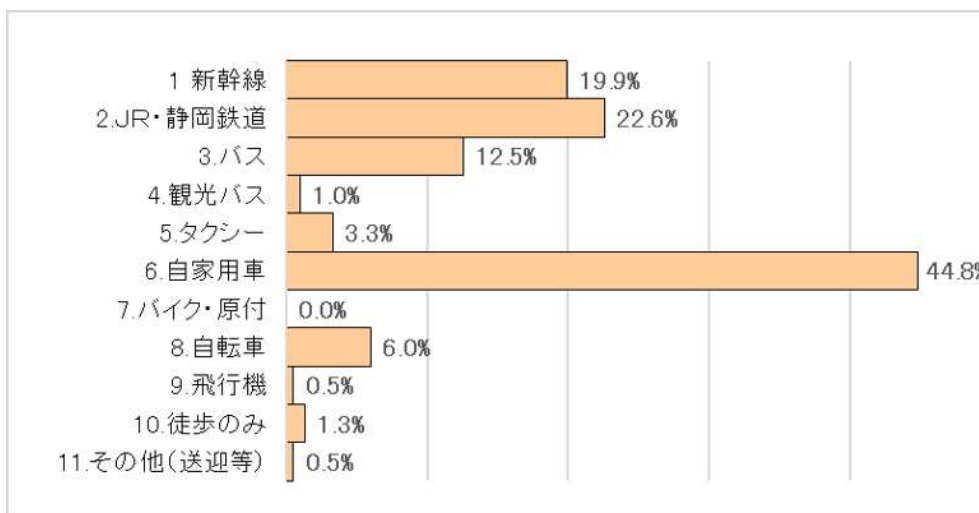


表 6 主な交通手段（複数回答:回答者総数 598 人に対する回答数の比率）（n=598）

居住地 交通手段	回答数				対回答者数比				(参考)
	静岡市	静岡市以外 の静岡 県内	静岡県 外	回答数 合計	静岡市	静岡市以外 の静岡 県内	静岡県 外	合計 2025	合計 2024
1 新幹線	0	13	106	119	0.0%	5.2%	61.3%	19.9%	24.4%
2 JR・静岡鉄道	22	79	34	135	12.4%	31.9%	19.7%	22.6%	24.1%
3 バス	26	32	17	75	14.7%	12.9%	9.8%	12.5%	14.2%
4 観光バス	1	4	1	6	0.6%	1.6%	0.6%	1.0%	0.4%
5 タクシー	3	3	14	20	1.7%	1.2%	8.1%	3.3%	1.6%
6 自家用車	94	140	34	268	53.1%	56.5%	19.7%	44.8%	43.7%
7 バイク・原付	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
8 自転車	25	10	1	36	14.1%	4.0%	0.6%	6.0%	2.5%
9 飛行機	0	0	3	3	0.0%	0.0%	1.7%	0.5%	0.2%
10 徒歩のみ	7	1	0	8	4.0%	0.4%	0.0%	1.3%	1.1%
11 その他(送迎等)	3	0	0	3	1.7%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%
回答数	181	282	210	673	102.3%	113.7%	121.4%	112.5%	112.2%
回答者数	177	248	173	598	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(3) SDGs 推進 TGC しずおか 2025 について

① -1 イベントの来場のきっかけとなった情報源（性別）

情報源を対回答者数比でみると、X（旧ツイッター）が 13.9%（前回 19.3%）と比重を減らしている。反面で、Instagram 27.6%（21.8%）、TGC しずおか公式 HP 27.4%（24.6%）が比重を増加させている。家族や知人、職場の情報 23.7%（24.1%）、イベント等による告知活動 8.0%（12.6%）はやや比重を減らしている。

図 7 イベントの来場のきっかけとなった情報源（性別）※その他は略（n=598）

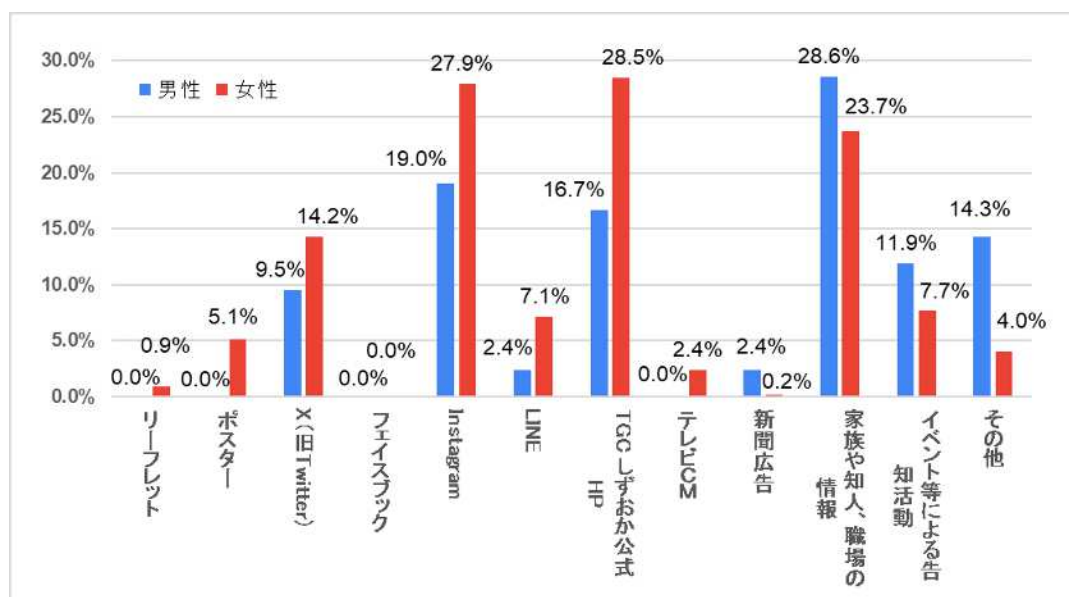


表 7 来場のきっかけとなった情報源（性別）（n=598）

情報源	性別	回答数				対回答者数比				
		男性	女性	その他	合計	男性	女性	その他	合計 2025	(参考) 合計 2024
リーフレット		0	5	1	6	0.0%	0.9%	12.5%	1.0%	1.6%
ポスター		0	28	1	29	0.0%	5.1%	12.5%	4.8%	2.3%
X (旧 Twitter)		4	78	1	83	9.5%	14.2%	12.5%	13.9%	19.3%
フェイスブック		0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Instagram		8	153	4	165	19.0%	27.9%	50.0%	27.6%	21.8%
LINE		1	39	2	42	2.4%	7.1%	25.0%	7.0%	12.7%
TGC しずおか公式HP		7	156	1	164	16.7%	28.5%	12.5%	27.4%	24.6%
テレビCM		0	13	0	13	0.0%	2.4%	0.0%	2.2%	2.7%
新聞広告		1	1	0	2	2.4%	0.2%	0.0%	0.3%	2.7%
家族や知人、職場の情報		12	130	0	142	28.6%	23.7%	0.0%	23.7%	24.1%
イベント等による告知活動		5	42	1	48	11.9%	7.7%	12.5%	8.0%	12.6%
その他		6	22	1	29	14.3%	4.0%	12.5%	4.8%	7.4%
性別合計		44	667	12	723	104.8%	121.7%	150.0%	120.9%	131.7%
回答者数		42	548	8	598	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（注）性別の「その他」は選択肢「答えたくない」と回答した人の集計である。

① -2 イベントの来場のきっかけとなった情報源（年齢別）

対回答者数比でみた情報源は、Instagramが27.6%、TGC しずおか公式 HP が27.4%、家族や知人・職場の情報が23.7%の3つが主な柱となっている。年齢別では、Instagramが若い年齢ほど情報源としての役割が大きく、10代では40.0%を占めている。

前回の2024年と比較すると、X（旧 Twitter）が13.9%（19.3%）、LINEが7.0%（12.7%）、イベント等による告知活動が8.0%（12.6%）などが比重を低下させている反面で、TGC しずおか公式 HP が27.4%（24.6%）と比重を高めている。

図8 来場のきっかけとなった情報源（年齢別）（n=598）

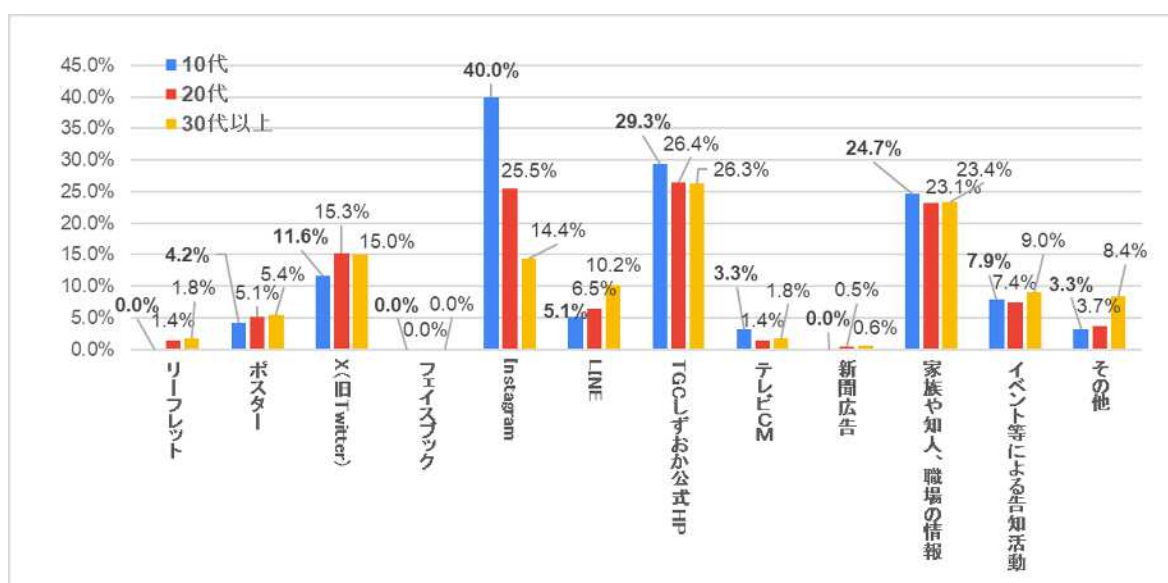


表8 来場のきっかけとなった情報源（年齢別）（n=598）

情報源	回答数				対回答者数比				(参考) 合計 2024
	10代	20代	30代以上	合計	10代	20代	30代以上	合計	
リーフレット	0	3	3	6	0.0%	1.4%	1.8%	1.0%	1.6%
ポスター	9	11	9	29	4.2%	5.1%	5.4%	4.8%	2.3%
X (旧 Twitter)	25	33	25	83	11.6%	15.3%	15.0%	13.9%	19.3%
フェイスブック	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Instagram	86	55	24	165	40.0%	25.5%	14.4%	27.6%	21.8%
LINE	11	14	17	42	5.1%	6.5%	10.2%	7.0%	12.7%
TGC しずおか公式 HP	63	57	44	164	29.3%	26.4%	26.3%	27.4%	24.6%
テレビCM	7	3	3	13	3.3%	1.4%	1.8%	2.2%	2.7%
新聞広告	0	1	1	2	0.0%	0.5%	0.6%	0.3%	2.7%
家族や知人、職場の情報	53	50	39	142	24.7%	23.1%	23.4%	23.7%	24.1%
イベント等による告知活動	17	16	15	48	7.9%	7.4%	9.0%	8.0%	12.6%
その他	7	8	14	29	3.3%	3.7%	8.4%	4.8%	7.4%
年齢別合計	278	251	194	723	129.3%	116.2%	116.2%	120.9%	131.7%
回答者数	215	216	167	598	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

① -3 イベントの来場のきっかけとなった情報源（居住地別）

居住地別に対回答者数比でみると、X（旧 Twitter）では静岡市と静岡県内居住者の比率が県外居住者に対して低いのにに対し、逆に Instagram は静岡市と静岡県内居住者の割合が高い。

TGC しずおか公式 HP と家族や知人、職場の情報は、静岡市と静岡県内居住者の比重が県外居住者に比べて顕著に高い反面で、イベント等による告知活動は県外居住者に比べて低い特徴がみられる。

図 9 イベントの来場のきっかけとなった情報源（居住地別）（n=598）

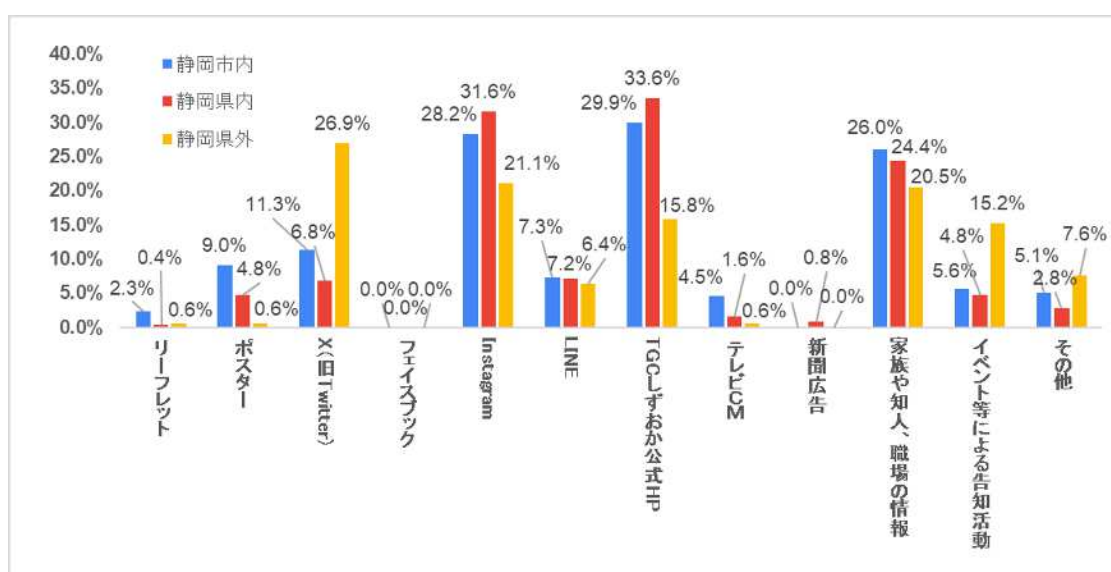


表 9 イベントの来場のきっかけとなった情報源（居住地別）（n=598）

居住地 情報源	回答数				対回答者数比				(参考) 合計 2024
	静岡 市内	静岡 県内	静岡 県外	合計	静岡 市内	静岡 県内	静岡 県外	合計	
リーフレット	4	1	1	6	2.3%	0.4%	0.6%	1.0%	1.6%
ポスター	16	12	1	29	9.0%	4.8%	0.6%	4.8%	2.3%
X (旧 Twitter)	20	17	46	83	11.3%	6.8%	26.9%	13.9%	19.3%
フェイスブック	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Instagram	50	79	36	165	28.2%	31.6%	21.1%	27.6%	21.8%
LINE	13	18	11	42	7.3%	7.2%	6.4%	7.0%	12.7%
TGCしずおか公式HP	53	84	27	164	29.9%	33.6%	15.8%	27.4%	24.6%
テレビCM	8	4	1	13	4.5%	1.6%	0.6%	2.2%	2.7%
新聞広告	0	2	0	2	0.0%	0.8%	0.0%	0.3%	2.7%
家族や知人、職場の情報	46	61	35	142	26.0%	24.4%	20.5%	23.7%	24.1%
イベント等による告知活動	10	12	26	48	5.6%	4.8%	15.2%	8.0%	12.6%
その他	9	7	13	29	5.1%	2.8%	7.6%	4.8%	7.4%
回答数合計	229	297	197	723	129.4%	118.8%	115.2%	120.9%	131.7%
回答者数	177	250	171	598	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

「その他」と回答した情報源の詳細

※ 回答のまま記載しています

【10代】

- TikTok
- もーりーしゅーとの公式 X
- シャンソン化粧品関係
- 学校
- 学校行事
- 友達

【20代】

- 連携イベントの SDGs イベントに自分の会社が出店してるため
- アーティストの SNS
- 事務所
- 推し
- 推しが出ているから
- 静岡銀行キャンペーンに当選
- 友人が静岡銀行のキャンペーンに当選

【30代以上】

- SHOWROOM
- WATWING が出演することになったから
- シャンソン化粧品関係
- 会社会議
- 関係者
- 推しがライブで出演発表したから
- 推しが出演するから
- 推しグループ出演
- 推しの SNS
- 毎年来ている

② このようなファッション等若者や女性向けイベントを開催することについて

イベント開催の感想について、「とても良い」という最高の評価は10代が86.5%（前回78.6%）、20代が78.2%（77.3%）、30代以上が71.3%（73.8%）であった。若い年齢ほど高評価が高い傾向となっている。特に10代で「とても良い」という高い評価が大きく伸びているのが今回の特徴である。

図10 このようなファッション等若者や女性向けイベントを開催することについて（n=598）

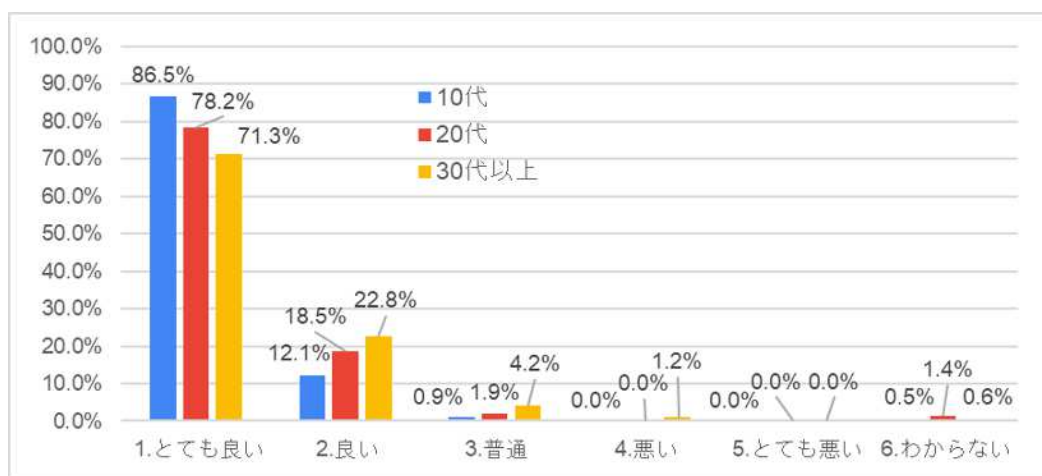


表10 このようなファッション等若者や女性向けイベントを開催することについて（n=598）

年齢 イベントの評価	回答者数											
	男性				女性				性別合計（その他含む）			
	10代	20代	30代以上	小計	10代	20代	30代以上	小計	10代	20代	30代以上	合計
1.とても良い	8	11	12	31	177	155	104	436	186	169	119	474
2.良い	2	3	3	8	23	37	35	95	26	40	38	104
3.普通			1	1	2	4	6	12	2	4	7	13
4.悪い				0			2	2	0	0	2	2
5.とても悪い				0				0	0	0	0	0
6.わからない	1		1	2		3		3	1	3	1	5
無記入				0				0	0	0	0	0
合計	11	14	17	42	202	199	147	548	215	216	167	598

年齢 イベントの評価	回答数 構成比											
	男性				女性				性別合計（その他含む）			
	10代	20代	30代以上	小計	10代	20代	30代以上	小計	10代	20代	30代以上	合計
1.とても良い	72.7%	78.6%	70.6%	73.8%	87.6%	77.9%	70.7%	79.6%	86.5%	78.2%	71.3%	79.3%
2.良い	18.2%	21.4%	17.6%	19.0%	11.4%	18.6%	23.8%	17.3%	12.1%	18.5%	22.8%	17.4%
3.普通	0.0%	0.0%	5.9%	2.4%	1.0%	2.0%	4.1%	2.2%	0.9%	1.9%	4.2%	2.2%
4.悪い	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	0.4%	0.0%	0.0%	1.2%	0.3%
5.とても悪い	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6.わからない	9.1%	0.0%	5.9%	4.8%	0.0%	1.5%	0.0%	0.5%	0.5%	1.4%	0.6%	0.8%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（注）表のスペースの関係で、性別の「その他（答えたくない）」は略して性別合計に含めている。（グラフは性別合計である）

③ このイベント参加に伴い、ついでに観光やレジャーを行いますか？（複数回答）

静岡市内で観光を行なうとした回答は、合計で 23.1%（前回 21.8%）、静岡市以外の静岡県内で観光を行なうとした回答は、合計で 4.3%（5.5%）であった。静岡市を含む静岡県内で観光やレジャーを行う人は、合計で 27.4%（前回 27.3%）と 4 人に 1 人である。

この比率（27.4%）を約 7,000 人の参加者に乗じると 1,918 人となり、今回の TGC しずおか 2025 は、静岡市内と静岡県内に約 2,000 人の観光・レジャー客を誘発していると推定される。

図 11 このイベント参加に伴い、ついでに観光やレジャーを行いますか？（n=598）

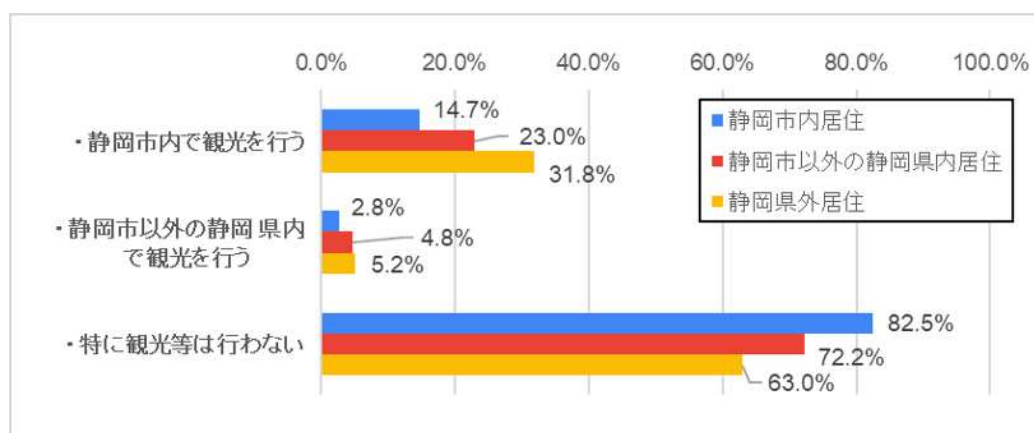


表 11 このイベント参加に伴い、ついでに観光やレジャーを行いますか？（n=598）

観光など	居住地	回答数				構成比				(参考) 合計 2024
		静岡市内居住	静岡市以外の静岡県内居住	静岡県外居住	合計	静岡市内居住	静岡市以外の静岡県内居住	静岡県外居住	合計	
・静岡市内で観光を行う		26	57	55	138	14.7%	23.0%	31.8%	23.1%	21.8%
・静岡市以外の静岡県内で観光を行う		5	12	9	26	2.8%	4.8%	5.2%	4.3%	5.5%
・特に観光等は行わない		146	179	109	434	82.5%	72.2%	63.0%	72.6%	72.7%
合計		177	248	173	598	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（表 11-付表） 観光を行う場所（居住地別）（記述回答のあった例）

居住地 観光地	居住地		静岡県外			
	静岡市	静岡市以外の静岡県				
観光やレジャーを行う予定の場所	ドリプラ	カフェ スシロー なし 観光 近場で 呉服町 清水	静岡市へ 静岡市内 大阪 買い物 買い物 浜松市 富士山	さわやか さわやかハンバーグ ハンバーグ食べる 駅 駅前 海鮮を食べに行った 近くの飲食店に行く	近場で食事 清水 静岡駅周辺 静岡市内 静岡市内 静岡市内 静岡駅周辺	熱海 熱海 熱海 熱海市 富士山 富士山

④ 静岡市外にお住まいの方にお尋ねします。このイベント以降、静岡市を訪れたいと思いますか？（複数回答可）

静岡市以外の居住者で、「静岡市を訪れたい」と回答した人の割合は、観光やレジャー 20.4%（前回 18.4%）、グルメ目的が 11.6%（24.4%）、興味のわくイベントが 9.7%（27.1%）の回答数の合計で 41.7%（69.9%）と低くなっている。複数回答のため、回答者数の割合ではないことに注意が必要であるが、全体として「静岡市を訪れたい」と回答した人の割合は低下している。その理由は、居住地の箇所（7 ページ）でも述べたが、静岡県外からの参加者の割合が 28.9%（前回 43.4%）と低くなって静岡市に近い居住者の割合が増えているため、観光などへの動機が小さくなっていることによるものと思われる。

図 12 このイベント以降、静岡市を訪れたいと思いますか？（複数回答）（n=446）

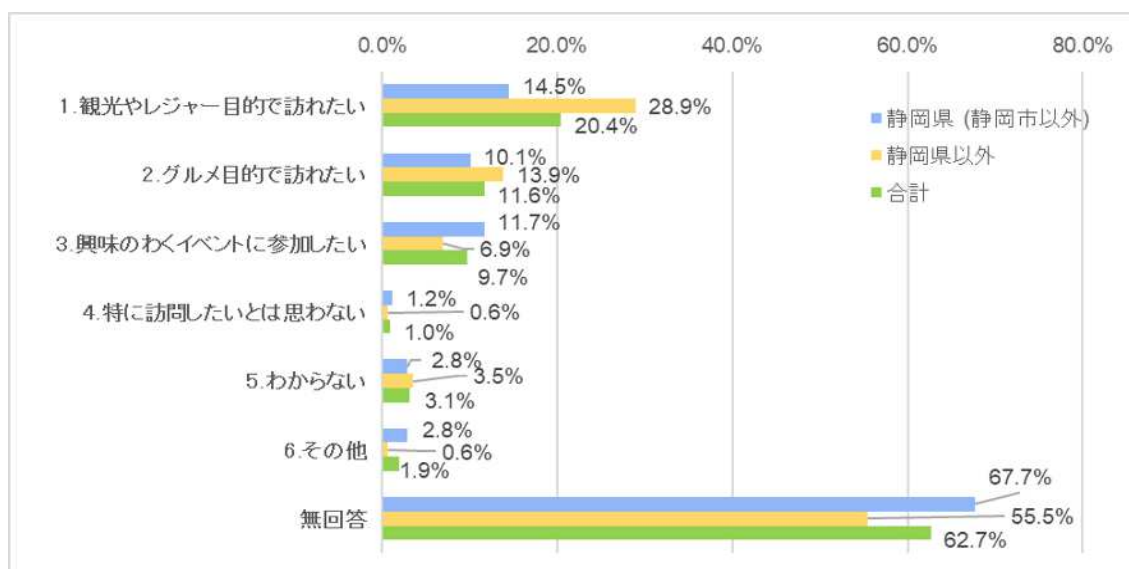


表 12 このイベント以降、静岡市を訪れたいと思いますか？（複数回答）（n=446）

居住地 静岡市を訪れたい と思うか	回答数			対回答者数比			(参考) 合計 2024
	静岡県 (静岡市 以外)	静岡県 以外	合計	静岡県 (静岡市 以外)	静岡県 以外	合計	
1.観光やレジャー目的で訪れたい	36	50	86	14.5%	28.9%	20.4%	18.4%
2.グルメ目的で訪れたい	25	24	49	10.1%	13.9%	11.6%	24.4%
3.興味のわくイベントに参加したい	29	12	41	11.7%	6.9%	9.7%	27.1%
4.特に訪問したいとは思わない	3	1	4	1.2%	0.6%	1.0%	0.9%
5.わからない	7	6	13	2.8%	3.5%	3.1%	7.6%
6.その他	7	1	8	2.8%	0.6%	1.9%	0.9%
無回答	168	96	264	67.7%	55.5%	62.7%	54.7%
合計	275	190	465	110.9%	109.8%	110.5%	134.1%
回答者数	248	173	421	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑤ 「TGC しずおか」が来年も開催された場合、参加しますか？

回答者合計では57.5%と6割近くが「参加する」と回答した（前回50.6%）。「参加は不明だが開催を希望する」は40.8%（46.9%）、「参加しない」は1.7%（2.5%）であった。「参加する」割合は、年齢別では10代が62.8%と多く、居住地別では静岡市清水区が71.4%と多いのが特徴的である。静岡県外の居住者で「参加する」と回答した人は前回37.1%であったが、今回は約9ポイント増えて46.2%となっている。「参加する」と「参加は不明だが開催を希望する」と回答した人を合わせた比率は98.3%（前回97.5%）と、来年開催への期待が高いことがうかがえる。

図13 「TGC しずおか」が来年も開催された場合、参加しますか？（n=598）

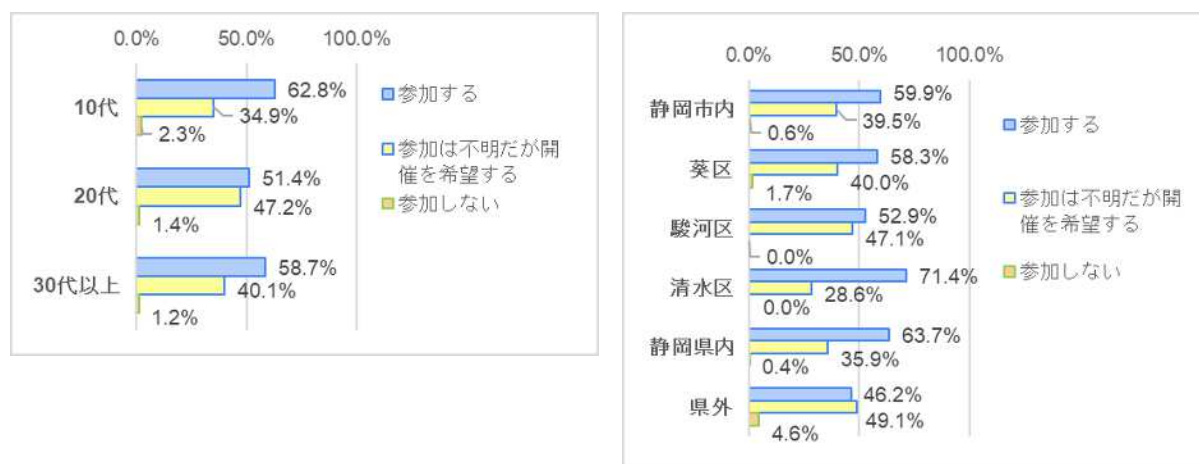


表13 「TGC しずおか」が来年も開催された場合、参加しますか？（n=598）

		回答数				構成比			
		参加する	参加は不明だが開催を希望する	参加しない	合計	参加する	参加は不明だが開催を希望する	参加しない	合計
（年齢別）									
年齢別	10代	135	75	5	215	62.8%	34.9%	2.3%	100.0%
	20代	111	102	3	216	51.4%	47.2%	1.4%	100.0%
	30代以上	98	67	2	167	58.7%	40.1%	1.2%	100.0%
	合計	344	244	10	598	57.5%	40.8%	1.7%	100.0%
(参考) 合計 2024		286	265	14	565	50.6%	46.9%	2.5%	100.0%
（居住地別）									
居住地別	静岡市内	106	70	1	177	59.9%	39.5%	0.6%	100.0%
	葵区	35	24	1	60	58.3%	40.0%	1.7%	100.0%
	駿河区	36	32	0	68	52.9%	47.1%	0.0%	100.0%
	清水区	35	14	0	49	71.4%	28.6%	0.0%	100.0%
	静岡県内	158	89	1	248	63.7%	35.9%	0.4%	100.0%
	県外	80	85	8	173	46.2%	49.1%	4.6%	100.0%
	合計	344	244	10	598	57.5%	40.8%	1.7%	100.0%
(参考) 合計 2024		286	265	14	565	50.6%	46.9%	2.5%	100.0%

⑥ 前回の「TGC しずおか 2024」(1月13日(土)開催)に参加(または視聴)しましたか？

前回の参加状況では、全体で「会場に来場し、参加した」と回答した人が37.0%（前回25.8%）、約3人に1人であった。「オンライン（LINE LIVE、YouTube等）で視聴した」人は20.4%（26.4%）、「いいえ」と回答した人は42.6%（47.8%）であった。前回参加した人の割合が11.2ポイントと顕著に高くなっている。

年齢別では、「オンライン」を視聴した10代の割合が31.2%と際立って高く、オンラインが10代の次回の参加に果たしている役割を知ることができる。地域別では、地元である静岡市内居住者では「参加した」人の割合が41.8%となり、平均より高い。

図14 前回の「TGC しずおか 2024」(1月13日(土)開催)に参加(または視聴)しましたか？ (n=598)

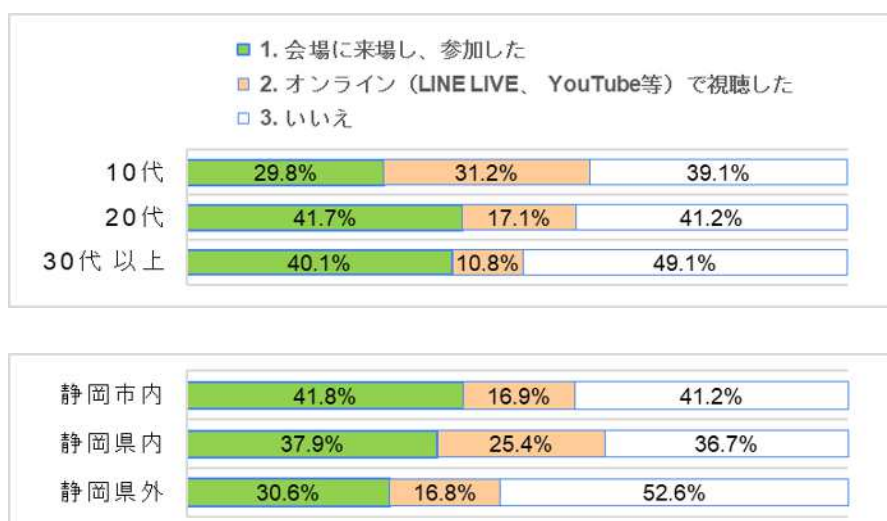


表14 前回の「TGC しずおか 2024」(1月13日(土)開催)に参加(または視聴)しましたか？ (n=598)

回答		年齢				居住地				(参考) 合計 2024
		10代	20代	30代以上	合計	静岡市内	静岡県内	静岡県外	合計	
回答	1. 会場に来場し、参加した	64	90	67	221	74	94	53	221	146
	2. オンライン (LINE LIVE、YouTube等) で視聴した	67	37	18	122	30	63	29	122	149
	3. いいえ	84	89	82	255	73	91	91	255	270
	合計	215	216	167	598	177	248	173	598	565
構成比	1. 会場に来場し、参加した	29.8%	41.7%	40.1%	37.0%	41.8%	37.9%	30.6%	37.0%	25.8%
	2. オンライン (LINE LIVE、YouTube等) で視聴した	31.2%	17.1%	10.8%	20.4%	16.9%	25.4%	16.8%	20.4%	26.4%
	3. いいえ	39.1%	41.2%	49.1%	42.6%	41.2%	36.7%	52.6%	42.6%	47.8%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

- ⑦ 「会場に会場し、参加した」又は「オンラインで視聴した」と回答した方にお聞きします。TGC しずおかへの参加（または視聴）によって SDGs 推進を意識し、行動に移すことができましたか。（例：環境に配慮された服を選ぶようになった等）

TGC しずおか開催の目的の大きな1つがSDGsの推進であることから、前回参加または視聴した人にTGC しずおか2024によるSDGsへの意識、行動を尋ねた。「具体的な行動ができ、現在も継続している」と回答した人の割合は、会場に会場し、参加した人が23.5%（前回23.3%）、オンラインで視聴した人は13.1%（10.7%）と前回に比べて増加している。臨場感あふれる会場内でのSDGsのアピールの効果をうかがうことのできる調査結果である。

図15 TGC しずおかへの参加（または視聴）によってSDGs推進を意識し、行動に移すことができましたか。（n=343）



表15 TGC しずおかへの参加（または視聴）によってSDGs推進を意識し、行動に移すことができましたか。（n=343）

SDGsの行動		回答			
		会場に会場し、参加した	オンラインで視聴した	計	(参考) 計2024
回答	1. 具体的な行動ができ、現在も継続している	52	16	68	50
	2. 一定期間は意識して行動できた	29	26	55	63
	3. 全く意識していない	11	8	19	19
	4. 無回答	129	72	201	163
	計	221	122	343	295
構成比	1. 具体的な行動ができ、現在も継続している	23.5%	13.1%	19.8%	16.9%
	2. 一定期間は意識して行動できた	13.1%	21.3%	16.0%	21.4%
	3. 全く意識していない	5.0%	6.6%	5.5%	6.4%
	4. 無回答	58.4%	59.0%	58.6%	55.3%
	計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑧ 来場にあたって、ご自宅から会場までの片道の所要時間をお答えください

会場までの片道所要時間について尋ねた結果は、図 16、表 16 の通りである。

静岡市内居住者は 29 分以内が 43.5%、30 分から 59 分が 45.8%で、あわせて 1 時間以内の人が 89.3%と約 9 割となっている。

静岡市を除く静岡県内居住者は、最も多いのは 1 時間～2 時間未満で 60.1%であった。30～59 分が 20.2%、2 時間～3 時間未満が 15.7%であった。

静岡県外居住者では 2～3 時間未満が 30.6%、3～4 時間未満が 29.5%となっている。また、来場者の中には 4 時間以上かけて来場する人も 4.8%いるなど、期待の大きさをうかがうことができる。

参加者の居住地の項でも触れたが、今回は静岡市と静岡市を除く静岡県内からの参加者の占める割合が増え、静岡県外からの参加者の割合が減っていることから、図表には表していないが、会場までの所要時間も少なくなっている。

図 16 来場にあたって、ご自宅から会場までの片道の所要時間（n=598）

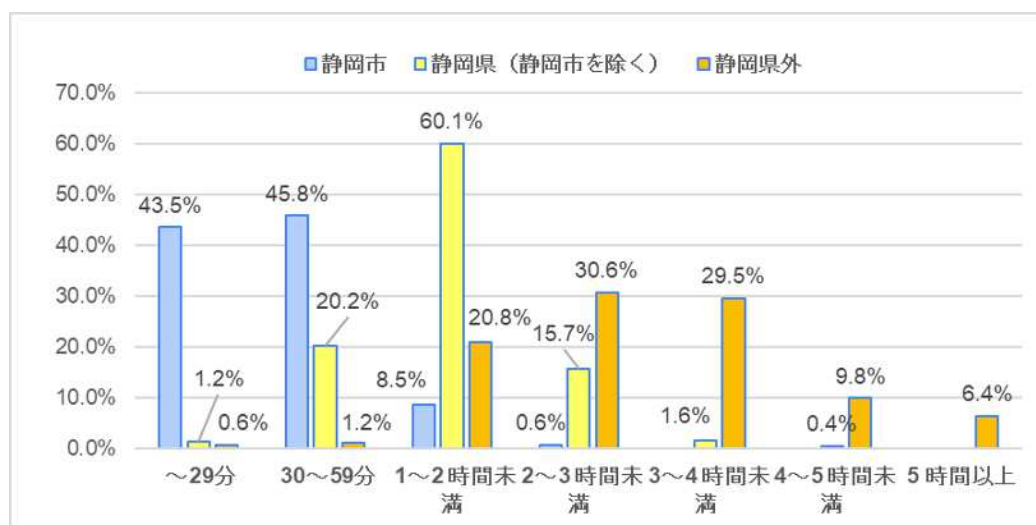


表 16 来場にあたって、ご自宅から会場までの片道の所要時間（n=598）

会場まで 居住地	回答（人）				構成比（％）			
	静岡市	静岡県	静岡県外	合計	静岡市	静岡県	静岡県外	合計
～29分	77	3	1	81	43.5%	1.2%	0.6%	13.5%
30～59分	81	50	2	133	45.8%	20.2%	1.2%	22.2%
1～2時間未満	15	149	36	200	8.5%	60.1%	20.8%	33.4%
2～3時間未満	1	39	53	93	0.6%	15.7%	30.6%	15.6%
3～4時間未満		4	51	55		1.6%	29.5%	9.2%
4～5時間未満		1	17	18		0.4%	9.8%	3.0%
5時間以上			11	11			6.4%	1.8%
不詳	3	2	2	7	1.7%	0.8%	1.2%	1.2%
合計	177	248	173	598	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑨ 会場への片道の交通費をお答えください

交通費への支出を交通手段別にまとめたのが表 17 である。交通費は、経済波及効果の分析に用いるが、自家用車の燃料費や高速道路料金など、アンケートでは回答が難しい交通費もあるため、詳しい交通費については、経済波及効果の分析の部分で考察したい。

表 17 では、交通手段別に集計した交通費を掲げているが、注 1 に記載したように、少ない回答者が複数の交通手段を利用して来場しているため、1つの交通費の回答額からそれぞれの交通手段ごとの交通費を知ることはできない。そのため、回答額は主な交通手段の欄に記載する、という方法をとっている。例えば、東京から新幹線と路線バスで会場まで来た場合は、回答額を「新幹線」の欄に記載している。

また、自家用車で参加した人が「0 円」と回答した人は、燃料代などがかかっているため、集計から外し、0 円以外の有額回答だけを集計している。

集計結果は、新幹線で参加した人の平均交通費は 9,020 円、JR 在来線・静岡鉄道で参加した人は 1,839 円、路線バス・高速バスを利用した人は 984 円であった。自家用車を利用した人は 2,835 円であったが、主に高速道路料金など有料道路代だと思われる。飛行機を利用した人は 3 人であったが、回答額の 33,333 円には、空港からの路線バス代が含まれている。

表 17 会場への片道交通費 (n=598)

交通手段 交通費 (注1)	交通手段 回答数 (複数回答)	交通費有 効回答数	交通費回 答総額	1人あた り平均片 道交通費	(参考) 平均 片道交通費 2024
記号・算式	A	B	C	D=C÷B	
1. 新幹線	120	116	1,046,330	9,020	11,271
2. JR 在来線・静岡鉄道	136	122	224,350	1,839	1,654
3. 路線バス・高速バス (注2)	82	45	44,280	984	3,307
4. 観光バス	6	1	2,800	2,800	...
5. タクシー	20	6	24,000	4,000	5,000
6. 自家用車	268	139	394,060	2,835	2,753
7. バイク・原付	0	-	-	-	0
8. 自転車	36	-	-	-	-
9. 飛行機	3	3	100,000	33,333	30,000
10. 徒歩のみ	9	-	-	-	-
11. その他	4	-	-	-	-
回答数	684	432	1,835,820	4,250	5,051
回答者数	598			3,070	

(注1) 複数の交通手段の回答者の交通費は、主要な交通手段に記入した。

交通費有効回答数には、自家用車の交通費を 0 と回答した人を外している。

(注2) 路線バス・高速バスの回答者の交通費は、他の交通手段を用いない回答者だけを集計している。また、1人あたり平均交通費は、路線バスと高速バスを合わせた回答である。

⑩ 来場に当たって、宿泊をしましたか。宿泊数、宿泊費も教えてください

参加者のうち宿泊した人の割合は 11.2%と前回（13.3%）に比べてやや低くなった。来場者の居住地が近隣化の影響によるものと考えられる。静岡県外からの来場者に限れば宿泊者は 32.4%（前回 22.4%）と高くなっているが、県外からの来場者が少なくなっているため、全体に影響を与えるに至っていない。推定宿泊者総数は 894 人（1,059 人）、宿泊費総額は 820 万円（782 万円）にのぼると推定される。

表 18 宿泊の有無、宿泊地、宿泊費（n=598）

居住地	宿泊 日帰り 者数	静岡市内宿泊		静岡県内宿泊		静岡県外宿泊		合計	
		宿泊者 数	宿泊費総 額(円)	宿泊者 数	宿泊費総 額(円)	宿泊者 数	宿泊費総 額(円)	宿泊者 数	日帰り+ 宿泊者計
記号・算式	A	B	C	D	E	F	G	H	I
静岡市	176	1	8,000					1	177
静岡県	238	7	53,000	3	32,000			10	248
静岡県外	117	49	436,100	4	51,700	3	30,100	56	173
合計	531	57	497,100	7	83,700	3	30,100	67	598

● 日帰り・宿泊者構成比

静岡市	99.4%	0.6%		0.0%		0.0%		0.6%	100.0%
静岡県	96.0%	2.8%		1.2%		0.0%		4.0%	100.0%
静岡県外	67.6%	28.3%		2.3%		1.7%		32.4%	100.0%
合計	88.8%	9.5%		1.2%		0.5%		11.2%	100.0%

● 1人平均宿泊費（円）

（単位：円）

静岡市	-		8,000						8,000
静岡県	-		7,571		10,667				8,500
静岡県外	-		8,900		12,925		10,033		9,248
合計			8,721		11,957		10,033		9,118

● 日帰り・宿泊者数の推計値（総数：人）

居住地	宿泊 日帰り 者数	静岡市内宿泊		静岡県内宿泊		静岡県外宿泊		合計	
		宿泊者 数	宿泊費総 額(円)	宿泊者 数	宿泊費総 額(円)	宿泊者 数	宿泊費総 額(円)	宿泊者 数	日帰り+ 宿泊者計
静岡市	2,349	13		0		0		13	2,362
静岡県	3,176	93		40		0		133	3,309
静岡県外	1,561	654		53		40		747	2,309
合計	7,086	761		93		40		894	7,980

● 参加者の宿泊費総額－推計（100万円）

居住地	宿泊 日帰り 者数	静岡市内宿泊		静岡県内宿泊		静岡県外宿泊		合計	
		宿泊者 数	宿泊費総 額(円)	宿泊者 数	宿泊費総 額(円)	宿泊者 数	宿泊費総 額(円)	宿泊者 数	日帰り+ 宿泊者計
静岡市			0.1		0.0		0.0		0.1
静岡県			0.7		0.4		0.0		1.1
静岡県外			5.8		0.7		0.4		6.9
合計			6.6		1.1		0.4		8.2

⑪ 来場にあたって使った金額

交通費を除く参加者の支出については、表19のとおりである。総額は4,040万円（前回8,070万円）の半分の額となった。

表19 来場者の支出額（n=598）

回答 支出地域		回答者 数(人)	支出した 人の比率 (注1)	回答額計 (円)	回答者1人 あたり支出 額 (円)	全参加者中 の支出者数 (人)	全参加者 推定支出額 (100万円)	(参考) 全参加者の推定 支出額 (100万円)	
記号・計算式		A	対回答者 598人比	B	C=B/A	D=A/598人 × 7,980人	E=C×D	2024年	2023年
宿泊費	総数	65	10.9%	597,000	9,185	867	8.0	9.5	6.8
	静岡市内	59		521,800	8,844	787	7.0	7.3	4.6
	静岡県内	4		51,700	12,925	53	0.7	0.6	0.9
	静岡県外	2		23,500	11,750	27	0.3	1.6	1.4
飲食費	総数	204	34.1%	288,310	1,413	2,722	3.8	23.8	14.4
	静岡市内	159		235,060	1,478	2,122	3.1	23.0	12.4
	静岡県内	40		46,550	1,164	534	0.6	0.7	1.1
	静岡県外	5		6,700	1,340	67	0.1	0.1	0.9
洋服・帽子	総数	88	14.7%	556,400	6,323	1,174	7.4	14.2	15.3
	静岡市内	70		473,500	6,764	934	6.3	6.6	8.3
	静岡県内	18		82,900	4,606	240	1.1	1.3	3.4
	静岡県外	0		0	0	0	0.0	6.4	3.6
バッグズ	総数	94	15.7%	540,000	5,745	1,254	7.2	5.3	7.0
	静岡市内	75		445,000	5,933	1,001	5.9	1.8	4.3
	静岡県内	19		95,000	5,000	254	1.3	1.0	1.8
	静岡県外	0		0	0	0	0.0	2.4	0.9
アクセサ	総数	79	13.2%	185,700	2,351	1,054	2.5	2.5	3.7
	静岡市内	63		151,600	2,406	841	2.0	1.5	2.3
	静岡県内	16		34,100	2,131	214	0.5	0.3	0.2
	静岡県外	0		0	0	0	0.0	0.8	1.2
化粧品	総数	79	13.2%	249,800	3,162	1,054	3.3	7.7	4.4
	静岡市内	64		216,000	3,375	854	2.9	3.3	2.4
	静岡県内	15		33,800	2,253	200	0.5	0.4	1.1
	静岡県外	0		0	0	0	0.0	4.0	0.9
会場内グッズ	総数	40	6.7%	44,500	1,113	534	0.6	2.8	2.1
	静岡市内	40		44,500	1,113	534	0.6	2.8	1.8
	静岡県内							0.0	0.3
	静岡県外							0.0	0.1
お土産	総数	53	8.9%	129,400	2,442	707	1.7	5.3	2.5
	静岡市内	43		107,600	2,502	574	1.4	5.1	2.2
	静岡県内	11		21,800	1,982	147	0.3	0.2	0.1
	静岡県外	0		0	0	0	0.0	0.0	0.2
美容費	総数	56	9.4%	433,000	7,732	747	5.8	9.6	18.3
	静岡市内	46		355,000	7,717	614	4.7	3.4	6.0
	静岡県内	10		78,000	7,800	133	1.0	1.5	7.3
	静岡県外	0		0	0	0	0.0	4.8	5.1
総合計	総数(延べ)	758	126.8%	3,024,110	3,990	10,115	40.4	80.7	74.7
	静岡市内	619		2,550,060	4,120	8,260	34.0	54.7	44.1
	静岡県内	133		443,850	3,337	1,775	5.9	6.0	16.2
	静岡県外	7		30,200	4,314	93	0.4	20.1	14.4

(注) 1人の人が複数の費目で支出しているため、内訳を足した数が合計と一致しない。

静岡市内、静岡市以外の静岡県内、静岡県外の3つの地域ごとの経済波及効果を求めるために、参加者の支出がどの地域で行われたかを把握することが欠かせない。表の中の地域は、居住地ではなく支出した地域であることに留意していただきたい。

総額が大きく減少した理由を調べるため、表20を作成して支出した人の比率、1人あたり支出額を昨年と比較してみた。表から、次のことが浮かび上がる。

(1) 支出した人の比率が、費目によって大きく減少している（表中オレンジ色着色）。

例えば、飲食費34.1%（前回71.3%）、化粧品13.2%（37.7%）、会場内グッズ6.7%（22.8%）、お土産8.9%（34.0%）などの費目である。合計では126.8%（前回261.1%）であったが、1人平均で前は、約2.6費目にお金を使っていたが、今回は半分の約1.3費目に使うなど、支出対象をかなり絞り込んでいることがうかがえる。

(2) 1人あたり支出額3,986円は、前回（3,875円）とほぼ変わってない。

ただ、1人あたり支出額では、多くの費目の金額が上昇している反面で、多くの人がお金を使う飲食費は今回1,413円（4,177円）と約3分の1に縮小している。

以上、(1)と(2)から導かれる来場者の今回の来場者の消費行動の特徴は、お金の支出対象を少数に絞りこみながら、飲食費を除き、購入すると決めたものは高くてもお金をかける、という変化である。この消費行動の変化が生じている理由として、調査対象の費目を含む全般的な物価の上昇によって、来場者の家計にお金の余裕がなくなってきたことが背景にあると想定される。

表20 使ったお金の前回（TGCSしずおか2024）との比較（n=598、前回565）

前年比較 費目	支出した人の比率		1人あたり支出額(円)		総額(100万円)	
	2025	2024	2025	2024	2025	2024
宿泊費	10.9%	13.3%	9,185	8,937	8.0	9.5
飲食費	34.1%	71.3%	1,413	4,177	3.8	23.8
洋服・帽子	14.7%	32.9%	6,323	5,416	7.4	14.2
シューズ・バッグ	15.7%	13.5%	5,745	4,908	7.2	5.3
アクセサリ	13.2%	15.0%	2,351	2,114	2.5	2.5
化粧品	13.2%	37.7%	3,162	2,575	3.3	7.7
会場内グッズ	6.7%	22.8%	1,113	1,536	0.6	2.8
お土産	8.9%	34.0%	2,385	1,952	1.7	5.3
美容費	9.4%	20.5%	7,732	5,871	5.8	9.6
合計	126.8%	261.1%	3,986	3,875	40.4	80.7

(注)「支出した人の比率」は複数回答のため、合計は100%を超えている。

今回、上記の消費行動の変化が顕著に表れている飲食費について、表21と表22によりみてみた。飲食費の年齢別、居住地別分析は、今回初めて行ったものである。

表21は、飲食費の支出を年齢別にみたものである。年齢層では前回参加の多かった20代が、今回10代と30代以上にシフトしているため、上述した飲食費の支出の激減が年齢で異なる飲食費への支出の影響を受けていないかどうかをみるためである。

支出した人の割合をみると、前回と今回で、年齢による変化はどの年齢にも同じように

起きていて、特定の年齢だけの変化は特に見当たらない。また、1人あたり支出額もどの年齢でも一様な変化を見せていて、特定の年齢だけの変化は見当たらない。

したがって、飲食費の消費行動の変化は、来場者の年齢層の変化によるものではないと推定される。

表21 飲食費の年齢別の考察（n=598、前回565）

項目 年齢	今回 2025					前回 2024		
	参加者 数(人)	参加者 構成比	支出した 人(人)	支出した 人の割合	1人あたり 支出額 (円)	参加者 構成比	支出した 人の割合	1人あたり 支出額 (円)
10代	215	36.0%	76	35.3%	1,339	33.1%	65.8%	3,472
20代	216	36.1%	71	32.9%	1,346	45.3%	66.8%	4,726
30代以上	167	27.9%	57	34.1%	1,596	21.6%	76.2%	4,818
計	598	100.0%	204	34.1%	1,413	100.0%	71.3%	4,177

表22は、飲食費への支出を居住地別にみたものである。今回は前回と比べて県外から来場する人が減少し、近隣から来場する人が増えているため、近隣来場者と遠方来場者の飲食への消費行動の違いが飲食費の原消費に影響していないかをみるためである。

表をみると、支出した人の割合では静岡市居住者が前回の89.9%から31.1%、静岡市以外の静岡県内居住者が76.1%から32.3%へと減少しているが、静岡県外居住者は56.3%から39.9%と減り方が少ない。同じことは1人あたり支出額にもあてはまり、県外居住者の飲食費への支出は近隣居住者より金額も人数も多いことがわかる。

したがって、今回の飲食費の減少には、来場者のうち、支出性向の高いこの県外居住者の来場者数の割合が前回の43.4%から今回28.9%へと減少したことも一因となっていることが分かる。ただ、これは上述した一般的傾向に加わっている一要因にすぎない。

表22 飲食費の居住地別の考察（n=598、前回565）

項目 居住地	今回 2025					前回 2024		
	参加者 数(人)	参加者 構成比	支出した 人(人)	支出した 人の割合	1人あたり 支出額 (円)	参加者 構成比	支出した 人の割合	1人あたり 支出額 (円)
静岡市	177	29.6%	55	31.1%	1,144	21.0%	89.9%	4,210
静岡県内	248	41.5%	80	32.3%	1,228	35.6%	76.1%	3,371
静岡県外	173	28.9%	69	39.9%	1,843	43.4%	56.3%	5,196
計	598	100.0%	204	34.1%	1,413	100.0%	71.3%	4,177

3. 地域経済波及効果の分析

(1) 経済波及効果の分析方法

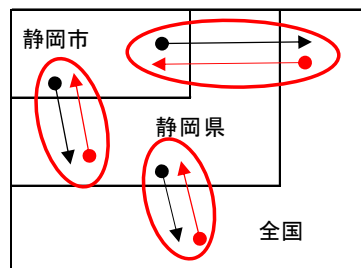
項目	解説
分析対象地域	○静岡市 ○静岡県
最終需要	○経済波及効果の起点となるお金の支出 ○本調査では、次の支出を取り上げている。 ① 来場者の支出 ② 来場者の交通費（自動車の燃料代を含む） ③ 主催者の運営経費
基礎データとしての産業連関表の特徴	○平成 27 年静岡市産業連関表（静岡市）と平成 27 年産業連関表（静岡県）、平成 27 年産業連関表（国：総務省統計局）の3地域の産業連関表を連結させた「平成 27 年静岡市-静岡県-全国3地域間産業連関表」を作成し用いた。（本ページ図 18 参照） ○前々回は平成 23 年表を用いて、静岡市-全国、静岡県-全国のそれぞれ 2 地域間産業連関表を作成し用いたため、前回と今回はより精度が高くなっている。
理論モデルの特徴	○家計内生化モデルを使用（次ページ理論モデル参照）。波及効果の結果、生産誘発に伴って生じる雇用者所得と家計消費の誘発が、さらなる生産誘発をもたらすプロセスを収束するまで把握できる特徴がある。（通常は間接二次効果として1回だけ計算する）
経済波及効果	○以下の効果を算出した。 ① 生産誘発効果（企業・産業への効果） ② 付加価値誘発効果 ③ 雇用効果（家計への効果） ④ 税収効果（市税、県税の増収など行政への効果） ⑤ 定住人口効果（地域社会への効果） ※雇用の誘発による家族を含む定住人口が増える効果

図17 静岡市－静岡県－全国3地域間産業連関表で把握する地域間経済取引

矢印は財貨サービスの地域間の流れを表す。

特長

地域外へ漏出した波及効果の「跳ね返り効果」（赤枠内）を算出（地域内表＝単独表では、赤枠で表した地域間の波及効果を捕捉することができない）。



最終需要 1（来場者の消費支出）は 1 人あたり支出額に来場者数（7,980 人）に乗じて求めた。

(理論モデル式)

$$\begin{bmatrix} \Delta X \\ \Delta V \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} I - TA & -Tc \\ -v & I \end{bmatrix} \begin{bmatrix} T\Delta F_d + \Delta E \\ 0 \end{bmatrix}$$

記号注 ΔX ：生産誘発額 ΔV ：誘発付加価値額 I ：単位行列

T ：交易係数（地域別移出または移入配分率） A ：投入係数

ΔF_d ：地域内最終需要の変化 ΔE ：移輸出の変化

(基礎データ)

初回（2019 年）、第 2 回（2020 年）の TGC しずおかの経済波及効果の計算で用いた静岡市及び静岡県の産業連関表は、平成 23 年（2011 年）の産業連関表であった。今回は前回と同様に、5 年ごとに作成される国（総務省統計局）と静岡県（知事直轄組織データ活用推進課）の最新の産業連関表である静岡市、静岡県、全国の平成 27 年（2015 年）の各産業連関表を連結させた「平成 27 年静岡市-静岡県-全国 3 地域間産業連関表」を用いて分析にあたった。

図 18 静岡市—静岡県—全国 3 地域間産業連関表のしくみ

投入 \ 産出			中間需要						最終需要										生産額 合計
			静岡市		静岡県		全国		静岡市		静岡県		全国		輸出	輸入			
			産業 A	産業 B	産業 A	産業 B	産業 A	産業 B	消費	投資	消費	投資	消費	投資					
中間 投入	静岡市	産業A																	
		産業B																	
	静岡県	産業A																	
		産業B																	
	全国	産業A																	
		産業B																	
粗付加価値								→ヨコ行は財貨サービスの販路先を(産出)を示す ↓タテ列は財貨サービスの購入元(投入)を示す											
生産額合計																			

(2) 経済波及効果の起点となる最終需要

地域経済波及効果の起点となるのが最終需要であるが、TGC しずおか 2025 の最終需要は、次の 2 つが柱となる。

- ① 最終需要 1 来場者の支出（交通費、宿泊費、飲食費、買い物、美容など）
- ② 最終需要 2 主催者の運営経費

うち、①の来場者の支出は、開催当日、会場内で参加者に実施したアンケート調査結果（n＝598）をもとに 1 人あたり費目別平均支出額を得た。交通費は、燃料代など回答者が正確に回答できない品目もあるため、分析にあたって推計した。

最終需要 1 - 来場者の支出（宿泊・飲食・買い物、交通費）

（ア）宿泊・飲食・買い物の推計

経済波及効果の起点となる来場者の支出（宿泊・飲食・買い物）は、21 ページの表 19 とした。

（イ）交通費の推計

交通費は、19 ページの表 17 をベースとしている。ただし、自家用車による来場者の経費については、使用した燃料代や有料高速道路料金をアンケート調査で正確に把握することが困難なため、次に述べる方法で別途推計している。

また経済波及効果の算出は、それぞれの交通機関が輸送サービスを提供した地域別に生産誘発額を把握するため、生産誘発効果の起点となる来場者が支払った電車賃や使用した燃料費などを、走行距離に応じて支出地別（静岡市内、静岡市を除く静岡県内、静岡県外）に配分する必要がある（お金が支払われた場所で記録する現金主義ではなく発生主義と言われる）。旅客を運ぶ輸送サービスがそれぞれの地域内で生産されるという意味である。そのため、表 17 をベースとしながら、支出地別の配分をここで新たに行っている。

具体的には、以下の方法で交通費の支出地別配分を行った。

1. 交通手段別の利用者数と交通費

利用者数は、本報告書 7 ページの表 6 と図 6 に掲げた有料の交通手段別利用者数を用いた。また交通費については、燃料代や有料道路代などアンケートでの回答が難しい自家用車を除いて、原則として、19 ページの表 17 で掲げた交通費の回答結果を用いた。

2. 支出地別配分とその方法

支出地は、経済波及効果の分析結果を表章する関係で、静岡市、静岡市を除く静岡県内、静岡県外の三区分とした。

具体的な支出地別配分は、アンケート調査の回答の平均値を 1 人あたり運賃とし、支出地内の走行距離で按分した。走行距離は、交通手段別に次の方法を用いて計測した。

① 新幹線、JR/静岡鉄道

- ・ 静岡市内居住者の運賃・・・支出地は静岡市内とした。
- ・ 静岡県内居住者の運賃・・・東方面からの来場者は沼津駅と静岡駅間、西方面からの来場者は袋井駅と静岡駅間の 2 方向の平均距離を 1 として静岡市域内の走行距離（蒲原駅と静岡駅、用宗駅/焼津駅の間と静岡駅の 2 方向の平均距離）の比率を用いた。
 - ・ 静岡市内走行距離 17.6km（比率 0.269）
 - ・ 静岡市を除く県内走行距離 47.8km（比率 0.731）
- ・ 静岡県外居住者の運賃・・・東方面からの来場者は東京駅と静岡駅間、西方面からの来場者は名古屋駅と静岡駅間の 2 方向の平均距離を 1 として、静岡県内について東方

面は熱海駅、西方面は弁天島駅を県域駅として静岡駅との走行距離を求め、これを平均して静岡県境から静岡駅までの走行距離とした。さらに、この走行距離から静岡市内走行距離を差し引いて、静岡市を除く静岡県内走行距離とした。結果は次のとおりである。

- ・ 静岡市内走行距離 17.6km（比率 0.096）
- ・ 静岡市を除く県内走行距離 65.0 km（比率 0.355）
- ・ 静岡県外の走行距離 100.4km（比率 0.549）

② 自家用車、高速バス

自家用車で来場した人の交通費は、ガソリン代と有料道路料金の 2 つから構成される。いずれも上述したように購入地ではなく消費地で地域へ配分するため、鉄道と同じように走行距離で按分している。走行距離は次の方法を用いて計測した。

- ・ 静岡市内居住者の走行距離・・・静岡市役所から会場まで（ツインメッセ静岡北館）の距離 2.0km を用いた。
- ・ 静岡県内居住者の走行距離・・・東方面（沼津市役所から会場まで）と、西方面（袋井市役所から会場まで）の平均距離 66.7km を用いた。支出地の配分にあたっては、静岡市を除く静岡県内走行距離はこの 66.7km から静岡市域（東方面は大井川、西方面は宇津ノ谷峠）から会場までの平均距離 25.5km を差し引いた 41.2km とした。
- ・ 静岡県外居住者の走行距離・・・東方面の起点を東京都庁、西方面の起点を愛知県庁とし、会場までの距離の平均値 180.4km をもって県外から会場までの自家用車での来場者の走行距離とした。
支出地の配分にあたっては、上記起点から静岡県の東県境を東名高速道路の御殿場 IC と足柄 IC の中間地点、西県境を三ヶ日 JCT と新庄 PA の中間地点とし、この 2 方向の平均距離 91.9km を静岡県内（静岡市内を含む）の走行距離とした。静岡市内走行距離は、東名高速道路の静岡市境（東は富士川、西は日本坂トンネルの中間地点）から会場までの平均距離 25.7km とした。

燃料代の算出にあたっては、ガソリン価格について、資源エネルギー庁「石油製品価格調査結果」（2025 年 1 月 14 日時点調査）を利用し、静岡市内居住者と静岡県内居住者については静岡県平均価格 181.5 円/ℓ を、静岡県外居住者については関東局管内の平均価格 180.6 円/ℓ と中部局管内の平均価格 179.0 円/ℓ との平均価格 179.8 円/ℓ を用いた。有料道路代についても、詳細は省くが燃料代と同様に居住地から会場までの有料道路代を走行距離で按分している。

なお、走行距離や有料道路料金は、Web 上の自動車ルート検索 NAVITIME を用いた。交通費の算出にあたっては、自転車、徒歩などによる来場者の費用は算出していない。以上の説明をもとにした交通費の算出結果を表 23 に掲げた。

表 23 交通費の推計 (n=598)

1. 静岡市居住者			記号 算式	新幹線	JR/静岡 岡鉄道	路線 バス	高速 バス	タク シー	自家用 車	航空機	利用交 通手段 数計
1人あたり片道 支出額 (円)	計		A		464	332		1,500	52		
	支出地 内訳	静岡市	B		464	332		1,500	52		
		静岡県 県外									
回答数(人)			C		22	28		3	94		147
同乗者数(人)			D					3.0	2.5		
推定利用者数 (人)	C÷598回答数 × 7980人		E		294	374		40	1,254		1,962
推定支出額 (往復) (100万円)	計				0.3	0.2		0.0	0.1		0.6
	支出地 内訳	静岡市	F=B/D × 2 × E		0.3	0.2		0.0	0.1		0.6
		静岡県 県外									

2. 静岡市以外の 静岡県内居住者			記号 算式	新幹線	JR/静岡 岡鉄道	路線 バス	高速 バス	タク シー	自家用 車	航空機	利用交 通手段 数計
1人あたり 片道支出額 (円)	計		A	3,136	1,605	1,031		2,250	1,413		
	支出地 内訳	静岡市	B	845	432	250		1,500	401		
		静岡県 県外		2,292	1,173	781		750	1,012		
回答数(人)			C	13	79	40		3	137		272
同乗者数(人)			D					2.5	2.3		
推定利用者数 (人)	C÷598回答数 × 7980人		E	173	1,054	534		40	1,828		3,630
推定利用額 (往復) (100万円)	計			1.1	3.4	1.1		0.1	2.6		8.2
	支出地 内訳	静岡市	F=B/D × 2 × E	0.2	0.7	0.3		0.0	0.7		2.0
		静岡県 県外		0.9	2.7	0.8		0.0	1.8		6.2

3. 静岡県外居住者			記号 算式	新幹線	JR/静岡 岡鉄道	路線 バス	高速 バス	タク シー	自家用 車	航空機	利用交 通手段 数計
1人あたり 片道支出額 (円)	計		A	9,204	3,339	250	5,200	1,500	6,172	33,333	
	支出地 内訳	静岡市	B	886	322	250	501	1,500	1,170		
		静岡県 県外		3,268	1,186		1,846		1,791	16,667	
回答数(人)			C	106	34	10	8	14	34	3	209
同乗者数(人)			D					1.9	2.4		
推定利用者数 (人)	C÷598回答数 × 7980人		E	1,415	454	133	107	187	454	40	2,789
推定利用額 (往復) (100万円)	計			26.0	3.0	0.1	1.1	0.3	2.8	2.7	36.0
	支出地 内訳	静岡市	F=B/D × 2 × E	2.5	0.3	0.1	0.1	0.3	0.5		3.8
		静岡県 県外		9.2	1.1		0.4		0.8	1.3	12.9
				14.3	1.7		0.6		1.5	1.3	19.3

合計				新幹線	JR/静岡 岡鉄道	路線 バス	高速 バス	タク シー	自家用 車	航空機	利用交 通手段 数計
回答数(人)				119	135	78	8	20	265	3	628
推定利用者数(人)				1,588	1,802	1,041	107	267	3,536	40	8,380
推定利用額 (往復) (100万円)	計			27.1	6.7	1.4	1.1	0.4	5.4	2.7	44.9
	支出地 内訳	静岡市		2.7	1.3	0.6	0.1	0.4	1.3	0.0	6.4
		静岡県 県外		10.1	3.7	0.8	0.4	0.0	2.7	1.3	19.1
				14.3	1.7	0.0	0.6	0.0	1.5	1.3	19.3

最終需要2－主催者の運営支出

経済波及効果の起点となる第2の柱として、開催に係る主催者の運営支出がある。そのうち、静岡市内、静岡県内（静岡市を含む）における運営支出額は、それぞれ4,160万円（前回4,850万円）、2,170万円（2,560万円）と見込まれる。静岡県外も含めた総額は、個別企業の売上額にかかわるため記載を×で秘匿した。

⑩ 最終需要のまとめ

以上をまとめると、経済波及効果の起点となる最終需要の額と地域別支出額は、表24の通りとなる。「2.主催者の運営経費」は個別企業の売上となるため、×で関連項目を秘匿扱いとしている。

費目別では「1.来場者の支出」が8,520万円（前回1億2,820万円）で、その内訳は「(1) 宿泊費・飲食費・買い物など」が4,040万円（8,070万円）、「(2) 交通費」が4,490万円（4,750万円）であった。

来場者の買い物などが半減しているとともに、交通費もやや減少していることで、来場者支出の総額は8,520万円となり、前回の66.6%、約3分の2となっている。

地域別では静岡市が8,210万円（前回1億520万円）、静岡市を含む静岡県が1億2,880万円（1億5,420万円）であった。静岡市の「(1) 宿泊費・飲食費・買い物など」が、前回の5,470万円から今回3,400万円に約2,000万円減少したことなどが静岡県内の最終需要の減少の原因となっている。

表24 最終需要のまとめ(費目別・支出地別)

(単位:100万円)

最終需要 \ 支出先地域	静岡市内	静岡県内	静岡市を含む静岡県内	静岡県以外の全国	合計
1. 来場者の支出	40.4	25.0	65.5	19.8	85.2
(1) 宿泊費・飲食費・買い物など	34.0	5.9	40.0	0.4	40.4
(2) 交通費	6.4	19.1	25.5	19.3	44.9
2. 主催者の運営支出	41.6	21.7	63.3	×	×
合計	82.1	46.7	128.8	×	×

(参考) 前回の開催の最終需要

(単位:100万円)

最終需要 \ 支出先地域	静岡市内	静岡県内	静岡市を含む静岡県内	静岡県以外の全国	合計
1. 来場者の支出	58.7	23.3	82.0	46.2	128.2
(1) 宿泊費・飲食費・買い物など	54.7	6.0	60.7	20.1	80.7
(2) 交通費	4.0	17.4	21.3	26.2	47.5
2. 主催者の運営支出	43.5	22.6	72.1	×	×
合計	105.2	49.0	154.2	×	×

(3) 経済波及効果の分析結果

① 企業・産業への経済波及効果（生産誘発効果）

TGC しずおか 2025 の経済波及効果の総額は、表 25 のとおり全国で 6 億 9,790 万円であった（前回 8 億 3,140 万円、-16.0%）。地域別では、静岡市内が 1 億 6,190 万円（2 億 770 万円、-22.1%）、静岡市を除く静岡県内が 9,440 万円（1 億 130 万円、-6.8%）、静岡市を含む静岡県内では 2 億 5,630 万円（3 億 900 万円、-17.1%）、静岡県を除く全国が 4 億 4,150 万円（5 億 2,240 万円、-15.5%）であった。

特徴として、経済波及効果の起点となる最終需要の総額が、静岡市、静岡市を除く静岡県内、静岡県を除く全国でいずれも減少していることが挙げられる。

- ・ 静岡市・・・8,210 万円（前回 1 億 520 万円）、減少額 2,310 万円（-22.0%）
- ・ 静岡県・・・4,670 万円（前回 4,900 万円）、減少額 230 万円（-4.7%）

特に静岡市内の最終需要の減少が、経済波及効果の減少の大きな要因になっている。静岡市に落ちたお金の減少の理由については、21 ページから 23 ページにかけて表 19 を含む「来場にあたって使ったお金」のところで考察しているので、参照していただきたい。

表 25 では、最終需要のうち地域に直接落ちたお金を「直接効果」、①地域内の原材料を通じた効果（間接一次効果）、②就業者の家計消費を通じた効果（間接二次効果）、③地域外からの 3 つの効果を「間接効果」としている。直接効果と間接効果を合計した金額が経済波及効果（生産誘発効果）であり、企業・産業への経済効果を表す。

表 25 経済波及効果のまとめ

（100万円）

項目	2025年					（参考）2024年				
	静岡県		静岡県 合計	静岡県 以外の 都道府 県	全国/ 合計	静岡県		静岡県 合計	静岡県 以外の 都道府 県	全国/ 合計
	静岡市	静岡市 を除く 静岡県				静岡市	静岡市 を除く 静岡県			
最終需要	82.1	46.7	128.8	X	X	105.2	49.0	154.2	125.6	279.8
直接効果 A	81.8	46.7	128.5	107.1	272.6	104.9	49.0	153.9	125.6	272.6
間接効果 B	80.1	47.7	127.8	334.4	425.3	102.8	52.4	155.1	396.8	558.9
経済波及効果 C	161.9	94.4	256.3	441.5	697.9	207.7	101.3	309.0	522.4	831.4
地域間の 跳ね返り効果	155.9	8.7	164.6	66.7	231.2	201.5	13.3	214.8	102.2	317.1
	5.5	83.1	88.6	48.0	136.5	5.7	85.2	90.9	52.8	143.7
	0.5	2.7	3.2	326.9	330.1	0.5	2.8	3.3	367.4	370.7
※波及倍率 C/A	1.98	2.02	1.99	4.12	2.56	1.98	2.07	2.01	4.16	3.05
付加価値誘発効果	91.2	54.5	145.6	247.5	393.2	...	...	...	...	...
雇用効果（人）	20	9	29	52	80	24	10	34	63	97
税収効果	5.2	...	8.9	...	...	8.5	...	10.2	...	...
定住人口効果（人）	35	21	56	...	...	43	...	66	...	...

（注）記号「…」は推計していないことを表す

表 26 は、紙面の関係で、経済波及効果の大きかった上位 40 位までを静岡県内合計を基準にみたものである。第 3 位の「商業」の波及効果は売上額から仕入れ額を引いた商業マージン、いわゆる粗利（あらり）である。上位には、その他对事業所サービス、鉄道輸送、商業などがきている。（参考）欄に前回の額を掲げたが、先にみたように来場者の飲食費への支出の減少などの影響が、商業部門や飲食サービス部門の減少に表れている。

表 26 産業別にみた経済波及効果(静岡県内合計を基準に上位 40 位:100 万円)

順位	産業別経済波及効果 (107部門)	(金額:100万円)				(全体構成比)		
		静岡市 内	静岡市 を除く 静岡県 内	合計 (静岡 県内)	(参考) 静岡県 合計 2024	静岡市 内	静岡市 を除く 静岡県 内	合計 (静岡 県内)
	合計	161.9	94.4	256.3	309.0	100.0%	100.0%	100.0%
1	その他の対事業所サービス	42.0	19.4	61.4	44.1	26.0%	20.5%	23.9%
2	鉄道輸送	4.8	14.4	19.2	16.5	3.0%	15.2%	7.5%
3	商業	10.0	5.9	15.9	32.7	6.2%	6.3%	6.2%
4	広告	5.4	5.0	10.4	10.5	3.4%	5.2%	4.1%
5	飲食サービス	7.0	2.4	9.4	31.2	4.3%	2.6%	3.7%
6	金融・保険	5.5	3.2	8.7	10.4	3.4%	3.4%	3.4%
7	衣服・その他の繊維既製品	7.0	1.5	8.5	4.6	4.3%	1.6%	3.3%
8	宿泊業	7.4	1.0	8.4	10.3	4.6%	1.0%	3.3%
9	食料品	5.0	2.7	7.7	11.4	3.1%	2.9%	3.0%
10	なめし革・革製品・毛皮	6.3	1.4	7.6	1.8	3.9%	1.4%	3.0%
11	洗濯・理容・美容・浴場業	5.7	1.6	7.2	6.6	3.5%	1.7%	2.8%
12	運輸附帯サービス	2.2	3.2	5.4	5.6	1.4%	3.4%	2.1%
13	化学最終製品(除医薬品)	3.5	1.0	4.4	4.0	2.1%	1.0%	1.7%
14	道路輸送(除自家輸送)	2.5	1.5	4.0	4.3	1.6%	1.6%	1.6%
15	通信	2.9	1.1	4.0	5.0	1.8%	1.2%	1.6%
16	放送	2.1	1.9	3.9	4.2	1.3%	2.0%	1.5%
17	その他の製造工業製品	3.1	0.7	3.8	1.4	1.9%	0.7%	1.5%
18	電力	2.3	1.4	3.7	4.7	1.4%	1.5%	1.5%
19	自家輸送	1.9	0.9	2.8	4.3	1.2%	1.0%	1.1%
20	住宅賃貸料	1.7	1.0	2.7	3.2	1.0%	1.1%	1.0%
21	不動産仲介及び賃貸	1.7	0.9	2.6	3.7	1.1%	1.0%	1.0%
22	医療	1.5	0.9	2.4	2.9	0.9%	1.0%	0.9%
23	教育	1.4	0.9	2.3	2.7	0.9%	1.0%	0.9%
24	娯楽サービス	1.4	0.9	2.3	2.7	0.9%	0.9%	0.9%
25	自動車整備・機械修理	1.5	0.8	2.3	2.9	0.9%	0.9%	0.9%
26	その他の対個人サービス	1.2	0.7	1.9	15.7	0.7%	0.7%	0.7%
27	航空輸送	0.3	1.5	1.8	3.6	0.2%	1.6%	0.7%
28	石油製品	0.9	0.8	1.7	2.0	0.5%	0.8%	0.6%
29	廃棄物処理	0.9	0.8	1.6	2.3	0.5%	0.8%	0.6%
30	飲料	0.8	0.7	1.5	2.3	0.5%	0.7%	0.6%
31	水道	0.8	0.5	1.3	1.8	0.5%	0.5%	0.5%
32	社会保険・社会福祉	0.8	0.5	1.3	1.5	0.5%	0.5%	0.5%
33	物品賃貸サービス	0.9	0.4	1.3	1.6	0.6%	0.4%	0.5%
34	ガス・熱供給	0.8	0.3	1.1	1.7	0.5%	0.3%	0.4%
35	他に分類されない会員制団体	0.7	0.4	1.1	8.8	0.4%	0.4%	0.4%
36	建設補修	0.6	0.5	1.0	1.2	0.3%	0.5%	0.4%
37	乗用車	0.6	0.4	1.0	1.2	0.4%	0.4%	0.4%
38	耕種農業	0.5	0.5	1.0	1.5	0.3%	0.5%	0.4%
39	プラスチック製品	0.3	0.7	1.0	0.9	0.2%	0.7%	0.4%
40	繊維工業製品	0.5	0.4	0.9	0.5	0.3%	0.5%	0.3%

② 家計への雇用効果

生産の増加は、就業者数の増加につながる。TGCは1日だけのイベントであるため、静岡市内や県内での恒常的な雇用増加は見込めないが、1日だけの生産の大きな増加が雇用市場に与えるインパクトを通年の正規雇用換算で表すと、静岡市内で20.0人（前回24.1人）、静岡市も含めた静岡県内へは28.9人（33.7人）、静岡県を含む全国では80.4人（96.8人）の雇用を創出するインパクトを持っている。

産業別には、会場設営や運営にかかわる「その他の他事業所サービス」への影響が最も大きい。静岡市内9.3人、静岡市を含む静岡県内13.5人となっている。

参加者の支出にかかわる産業では、「商業」は、静岡市1.3人（第3位）、静岡県内2.1人（第2位）となっている。「飲食サービス」が静岡市で1.1人（第5位）、静岡市を含む静岡県内1.5人（第4位）と多い。

繰り返しになるが、この雇用効果は、正規雇用者を通年で雇いあげた効果として算出しているため、数字が小さいように見えるが、1日だけのイベントであるTGCしずおか2025が通年で正規就業者の雇用機会を創出する力を持っている威力は大きい。

表 27 雇用効果（雇用機会創出効果）

順位	静岡市の雇用効果（人）	静岡市 内	（参考） 2024年	順位	静岡県の雇用効果（人）	静岡市 を除く	静岡市 を含む	（参考） 2024年
	合計	20.0	24.1		合計	8.9	28.9	33.7
1	その他の対事業所サービス	9.3	5.2	1	その他の対事業所サービス	4.3	13.5	9.7
2	衣服・その他の繊維既製品	1.5	0.8	2	商業	0.6	2.1	4.3
3	商業	1.3	3.2	3	衣服・その他の繊維既製品	0.5	1.8	1.0
4	なめし革・革製品・毛皮	1.2	0.2	4	飲食サービス	0.3	1.5	5.1
5	飲食サービス	1.1	4.7	5	なめし革・革製品・毛皮	0.4	1.5	0.4
6	洗濯・理容・美容・浴場業	0.9	0.7	6	洗濯・理容・美容・浴場業	0.3	1.2	1.1
7	宿泊業	0.7	0.9	7	宿泊業	0.1	0.8	1.0
8	耕種農業	0.4	0.6	8	耕種農業	0.3	0.7	1.0
9	道路輸送（バス・タクシー）	0.3	0.3	9	広告	0.3	0.6	0.7
10	広告	0.3	0.3	10	道路輸送（バス・タクシー）	0.2	0.6	0.6

（注）（参考）は静岡市を含む静岡県の数字である。

順位	全国の雇用効果（人）	静岡県 を除く	静岡県 を含む	（参考） 2024年
	合計	51.6	80.4	96.8
1	その他の対事業所サービス	7.8	21.4	14.8
2	広告	7.8	9.9	10.6
3	商業	4.6	6.4	10.5
4	その他の対個人サービス	4.8	6.4	14.4
5	鉄道輸送	4.9	6.4	8.2
6	映像・音声・文字情報制作	2.1	3.3	3.6
7	耕種農業	1.7	2.5	3.4
8	インターネット附随サービス	1.7	2.3	2.4
9	衣服・その他の繊維既製品	1.3	2.0	1.5
10	飲食サービス	1.4	1.9	5.5

（注）（参考）は静岡県を含む全国の数字である。

③ 行政への税収効果

行政への効果である税収効果は、静岡市の歳入効果が520万円（前回850万円）、静岡県では890万円（1,020万円）となった。

表 28 静岡市・静岡県の税収効果

1. 静岡市の税収効果

（単位：100万円）

静岡市の税収効果		課税標準対応項目 （産業連関表項目）	H27年産業 連関表より	H28一般 会計税収 額等	税率係 数	生産誘 発額な ど	税収効 果	（参考） 2024年
記号・算式			A	B	$t=B/A$	ΔX	$\Delta T=\Delta X \cdot t$	
市税	1.1 市町村民税（個人）	雇用者所得合計	1,540,614	41,908	0.0272	46	1.3	1.6
	1.2 市町村民税（法人）	営業余剰合計	627,013	10,810	0.0172	19	0.3	0.2
	2 固定資産税（注1）	設備投資額	648,036	52,978	0.0140	18	0.3	0.2
	3 軽自動車税	市内生産額合計	5,845,672	1,400	0.0098	162	1.6	0.0
	4 市町村たばこ税	民間消費支出計	1,655,446	4,571	0.0028	49	0.1	0.2
	5 入湯税	民間消費支出計	1,655,446	28	0.0000	49	0.0	0.0
	6 事業所税	市内生産額合計	5,845,672	4,065	0.0007	162	0.1	0.1
	7 都市計画税	市内生産額合計	5,845,672	10,570	0.0018	162	0.3	0.4
市税合計				126,330			4.0	2.8
地方 交付 金	1 地方譲与税	市内生産額合計	5,845,672	2,443	0.0004	162	0.1	0.1
	2 地方交付税（注2）	域内総生産額	3,071,546	11,405	0.0037	91	0.3	0.4
	3 地方消費税交付金（注3）	民間消費支出	1,615,164	18,139	0.0112	49	0.6	0.5
	4 その他（注4）	地域内総生産額	3,071,546	10,818	0.0035	91	0.3	4.8
地方交付金等合計				42,806			1.3	5.8
市町村税及び経済活動関連交付金増収額（合計）				169,135			5.2	8.5

- （注1）固定資産税については、課税標準（対象額）×課税対象価格調整係数0.7×税率1.4%で算出している。
（注2）利子割交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金、ゴルフ場利用税交付金、特別地方消費税交付金、自動車取得税交付金など、経済活動を反映した交付金
（注3）平成元年に税率が10%に改定されたことから、平成27年と平成28年度の対比ではなく令和3年の民間消費支出と令和4年度地方消費税交付金を対比させて税率を算出している。
（注4）今回は、他の交付金の交付額を2024年から絞って計上している。

2. 静岡県の税収効果

（単位：100万円）

静岡県の税収効果		課税標準対応項目 （産業連関表項目）	H27年産業 連関表より	H28年度 一般会計 税収額等	税率係 数	生産誘 発額な ど	税収効 果	（参考） 2024年
記号・算式			A	B	$t=B/A$	ΔX	$\Delta T=\Delta X \cdot t$	
県税	1.1 県民税（個人）	雇用者所得合計	8,101,258	152,639	0.0188	72	1.3	1.6
	1.2 県民税（法人）	営業余剰合計	2,976,867	16,638	0.0056	30	0.2	0.2
	1.3 利子割・配当割等	雇用者所得・営業余剰	11,078,125	169,277	0.0153	102	1.6	1.8
	2 事業税	県内生産額合計	33,324,396	126,397	0.0038	256	1.0	1.2
	3 地方消費税	民間消費支出	8,053,332	86,294	0.0107	78	0.8	0.9
	4 不動産取得税	域内総生産額（GRP）	16,223,229	11,796	0.0007	91	0.1	0.1
	5 県たばこ税	民間消費支出	8,688,991	7,171	0.0008	78	0.1	0.1
	6 ゴルフ場利用税	民間消費支出	8,053,332	2,597	0.0003	78	0.0	0.0
	7 自動車取得税	県内生産額合計	33,324,396	4,760	0.0001	256	0.0	0.0
	8 軽油引取税ほか	県内生産額合計	33,324,396	36,814	0.0011	256	0.3	0.3
	9 その他税	域内総生産額（GRP）	16,223,229	16,520	0.0010	146	0.1	0.2
県税小計				630,902			5.4	6.3
地方 交付 金	1 地方譲与税	県内生産額合計	33,324,396	13,240	0.0004	256	0.1	0.1
	2 地方交付税	域内総生産額（GRP）	8,053,332	103,644	0.0129	146	1.9	2.0
	4 各種交付金ほか	域内総生産額（GRP）	8,053,332	88,953	0.0110	146	1.6	1.8
	地方交付金等計			205,837			3.6	3.9
県税及び経済活動関連交付金増収額（合計）				836,739			8.9	10.2

- （注1）平成元年に税率が10%に改定されたことから、平成27年と平成28年度の対比ではなく令和3年の民間消費支出と令和4年度地方消費税収額を対比させて税率を算出している。

④ 地域社会への定住人口効果

生産が増え、雇用機会が創出されれば、家族を含めた定住人口の増加につながる。生産誘発効果に伴う雇用効果が、定住人口の増加につながる考え方を図 19 に図示した。

上述した雇用効果は、生産活動を支える就業者数なので、市外から通勤している就業者を含む昼間の就業者数（ $A+B$ ）であるため、「市内雇用係数」（ $A \div (A+B)$ ）を乗じて、静岡市内居住の就業者数への雇用効果を算出する。

静岡市の例でいえば、静岡市の人口を支えている就業者数の比率は $D \div (A+C)$ であるから、このうち、静岡市内に居住して静岡市内で働いている就業者数によって支えられている人口は、 $[D \div (A+C)] \times [A \div (A+B)]$ の公式で求めることができる。

定住人口効果の推計結果は、静岡市では通年換算で 35 人、静岡市を含む静岡県内では通年換算で 56 人であった。

図 19 定住人口効果を求める考え方

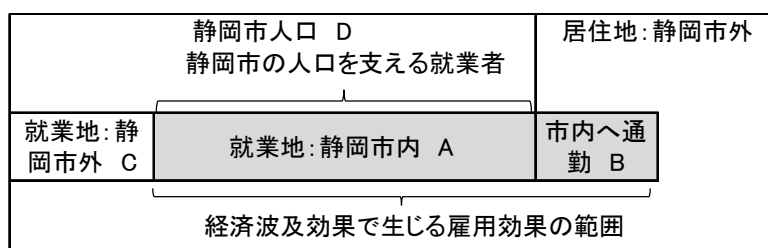


表 29 定住人口効果と計算手順

静岡市	項目	記号・算式	基礎数 (人)	比率
	静岡市人口	D	704,989	
	うち就業者(夜間)	A+C	350,852	1.000
	うち市内で就業する者	A	322,813	0.920
	うち市外で就業する者	C	28,039	0.080
	Aによって支えられている人口	$D_a = D \times A / (A+C)$	648,648	
	Aに対するD _a の比率(定住人口係数)	$e = D_a / A$	2.009	
	就業者(昼間)	A+B	366,648	1.000
	うち市外居住者	B	43,835	0.120
	うち市内居住者	A	322,813	0.880
	市内雇用効果係数	$f = A / (A+B)$	0.880	
	定住人口効果＝雇用効果×市内雇用効果係数 f × 定住人口係数 e			
	雇用効果		20.0 人	
	定住人口効果		35 人	

(注) 雇用効果と各係数は四捨五入して表出されているため、計算結果が表の数字と一致しない

静岡県

項目	記号・算式	基礎数 (人)	比率
静岡県人口	D	3,700,305	
うち就業者(夜間)	A+C	1,865,158	1.000
うち県内で就業する者	A	1,831,022	0.982
うち県外で就業する者	C	34,136	0.018
Aによって支えられている人口	$Da = D \times A / (A + C)$	3,632,582	
Aに対するDaの比率(定住人口係数)	$e = Da / A$	1.984	
就業者(昼間)	A+B	1,864,886	1.000
うち県外居住者	B	33,864	0.018
うち県内居住者	A	1,831,022	0.982
県内雇用効果係数	$f = A / (A + B)$	0.982	
定住人口効果＝雇用効果×市内雇用効果係数 f × 定住人口係数 e			
雇用効果		28.9 人	
定住人口効果		56 人	

(注) 雇用効果と各係数は四捨五入して表出されているため、計算結果が表の数字と一致しない

TGC しずおか 2025 は上述したように 7,980 人の来場者を迎えた 1 日だけのイベントであるが、これは、静岡県内において、年間で 7980 人の来客と 1 億 2,880 万円(最終需要)を売り上げる企業または店舗を 1 つ創出したことに相当する効果である。

定住人口効果は、この企業あるいはお店が企業の内外で働く人 28.9 人を通じて、その家族を静岡県内で 56 人支える力を持っていることを意味している。

TGC しずおか 2025 の数字で表される経済効果は以上のとおりであるが、本イベントの目的である SDGs への啓発を通じた自由で平等な多様性ある社会、自然環境と調和した社会づくりへ与える効果は、金銭評価が難しいが、確実に歩を進めていることを忘れてはならない。

(報告書 了)